

CSRの取り組み



ブラザーグループは、事業活動の礎である「グローバル憲章」に掲げられたステークホルダーへの信頼を積み重ねることをCSR経営の重要課題と位置づけ、グループ一丸となって取り組んでいます。

INDEX

トップからのCSRメッセージ	1
ブラザーグループのCSR	2
ステークホルダーの皆さまから信頼されるために	3
ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則	9
ブラザーグループのCSR課題	13
CSRデータ	18
ステークホルダーの皆さまとともに	21
お客様とともに	
お客様第一の製品開発	22
期待に応える設計品質	24
販売・サービス体制	26
従業員とともに	
多様な人材の確保	28
多様な働き方の支援	31
人材育成	36
安全衛生・防災	39
健康経営の推進	42
ビジネスパートナーとともに	
CSR調達の推進	48
お取引先の声	51
株主とともに	
IRコミュニケーション	55
外部からの評価	57
地域社会とともに	
グローバルな社会貢献活動	60
各地域での社会貢献活動	64

報告の範囲：ブラザー工業株式会社および国内・海外グループ会社
 対象期間：活動報告(実績) [2017年4月1日～2018年3月31日]
 参考にしたガイドライン：GRI「サステナビリティ・リポーティング・スタンダード」

トップからのCSRメッセージ

ステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ねるために

ブラザーグループのCSR経営

企業にとって「未来永劫に繁栄し続けること」が重要だと考えています。そのためには、事業の成長を目指すと同時に、社会への責任を真摯に果たし続ける経営、つまり、CSR経営をグローバルに推進することが大切です。

CSR経営とは、「ブラザーグループ グローバル憲章」に示しているように、社会からの要請や技術の変革など、会社を取り巻くさまざまな環境変化を先取りし、あらゆるステークホルダーの皆さまとの信頼を積み重ね、お客様や社会にとっての新たな製品やサービス、ソリューションを生み出すこと、つまりブラザーグループの使命である「優れた価値を提供する」ことに他なりません。



CSR経営の進化

ブラザーグループはその時々を経営環境の変化に即して事業を展開し、企業としての進化を果たしてまいりました。

しかし今、世界的なGDP成長率の低迷、モバイル端末の普及に伴う印刷機会の減少、あるいは為替や株価の乱高下など、ブラザーグループ全体に大きな経営インパクトを及ぼす外部環境・事業環境の急激な変化が起きています。非常に不透明な今だからこそ、中期戦略「CS B2018」で取り組んでいる「事業」「業務」「人財」の3つの変革を完遂し、経営基盤の強化を図りたいと考えています。

そのためブラザーグループは、多様化するお客様の声を反映した新規事業の育成・新商品の創出とそのプロセスを通じたモノ創り力の進化、グローバルな人材の育成、女性活躍推進をはじめとするダイバーシティの促進、地球環境保全への貢献、地域へ密着した社会貢献活動、コーポレートガバナンスの推進など、さまざまな課題に真摯に向き合っています。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に示された価値観を共有し、グループ従業員全員が「At your side.」の精神で行動し、ブラザーグループのCSR経営をさらに進化させていきます。

ステークホルダーの皆さまからの信頼を追求

ブラザーグループは、企業の成長に比例して高まるグローバルな期待や要請に応えるために、今後も、モノ創り企業としての優れた価値の提供、環境保全、社会貢献に取り組んでまいります。

ブラザーグループは未来に向かい、あらゆるステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ねる経営にグローバルチーム一丸となって挑戦し続けます。

2018年6月
ブラザー工業株式会社
代表取締役会長
小池 利和

ブラザーグループのCSR



ブラザーグループは、CSR活動の根幹となる考え方が示されている「ブラザーグループ グローバル憲章」を共有している従業員一人ひとりの行動によって、すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって心の底から誇りの持てる企業となることを目指します。

ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

- すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して
- すべての活動の礎に—「ブラザーグループ グローバル憲章」の共有
- 一人ひとりの行動のさらなる促進

ブラザーグループのCSR課題

- グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題
- 2016年度の活動計画と実績、および2017年度の活動計画

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

- 「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

CSRデータ

- 数字で見るブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR

ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

ステークホルダーからの信頼を高め、持続的に成長

ブラザーグループは、グローバルな期待や要請に応えるために、モノ創り企業としての優れた価値の提供、環境保全、社会貢献を、最高度の倫理観に根差した全従業員の行動によって促進し、ブラザーブランドへの信頼を高めていきます。

そして、未来に向かい、あらゆるステークホルダーから信頼される活動の一つ一つ積み重ね、従業員にとって誇りの持てる企業を目指すことで、ブラザーグループは持続的に成長していきます。

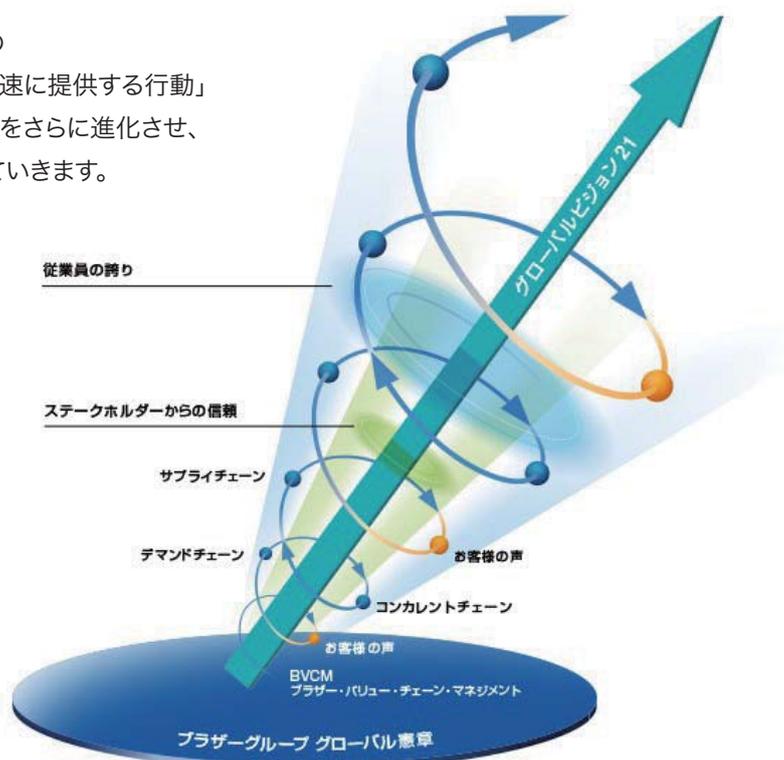
変革を恐れないブラザーの良き企業風土をさらに進化

ブラザーグループは1999年、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)を制定しました。

グローバル憲章に示しているように、社会からの要請や技術の変革など、会社を取り巻くさまざまな環境変化を先取りし、あらゆるステークホルダーとの信頼を積み重ね、お客様や社会にとっての新たな製品やサービスを生み出すこと、すなわち優れた価値を提供することがブラザーグループの使命です。

ブラザーグループは、独自のマネジメントシステム「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」(BVCM)を構築し、お客様のもとへ優れた価値をお届けするまでの過程を「デマンドチェーン」「コンカレントチェーン」「サプライチェーン」の3つのチェーンでつないでいます。グループ全体で優れた価値を提供する姿勢を貫き、事業を成長させてきたことにより、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーに与える影響も拡大し、それに伴いステークホルダーからの「要請や期待」も高まっています。

こうした中、ブラザーグループはグループ従業員の「"At your side."の精神で、優れた価値を創造し迅速に提供する行動」を強化し、変革を恐れないブラザーの良き企業風土をさらに進化させ、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」を達成していきます。



ブラザーグループのCSR ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

すべての活動の礎に---「ブラザーグループ グローバル憲章」の共有

グローバル憲章に基づく行動によってステークホルダーに価値を提供

40以上の国と地域で働くブラザーグループ従業員の活動の礎となるよう制定されたグローバル憲章は、ブラザーの中で受け継がれてきた「世の中の役に立ち、良い会社をつくりたい」という思いを言葉にしたものです。

創業100年となった2008年に、時代の変化に合わせて表現の変更や、従業員にとって理解しやすい内容への見直しを行いました。

グローバル憲章の「基本方針」は「グループ経営」「グループの成長」「ステークホルダーとの関係」で構成されています。

例えば「グループ経営」には、

- ・あらゆる場面でお客さまを第一に考え、モノ創りを通じて優れた価値を創造し、迅速に提供することを使命とする
- ・グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応えるために、あらゆる変革を恐れない

「グループの成長」には、

- ・お客さまに対し、提供する価値を増大させることで成長する
- ・企業価値を長期的に高め、従業員にとって誇りが持てる企業となるとあります。

「ステークホルダーとの関係」の「お客さま」には、

- ・"At your side."の精神で、優れた価値を創造し、迅速に提供する

「従業員」には、

- ・従業員の多様性を尊重し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジな仕事の機会を提供する

「ビジネスパートナー」には、

- ・常に公平・公正な取引を行い、相互信頼関係を築いて成長しあうことを目指す

とあります。他に「株主」「地域社会」「環境」と、それぞれのステークホルダーに対する方針も示しています。

「行動規範」には「個人に対する信義と尊敬」「順法精神・倫理観」「チャレンジ精神・スピード」とステークホルダーからの信頼を積み重ねるための行動として、望ましい姿が示されています。

このようにグローバル憲章には、ブラザーグループのCSR活動の根幹となる考え方が示されており、グローバル憲章の共有活動を通じて、これらの考え方を共有している従業員一人ひとりの行動が、ブラザーグループのCSR経営の要です。

ブラザーグループは、従業員の自律的な行動で、あらゆるステークホルダーから信頼される活動を一つ一つ積み重ねていきます。

ブラザーグループのCSR ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

すべての活動の礎に---「ブラザーグループ グローバル憲章」の共有

全従業員でグローバル憲章を共有するために、継続的な共有活動を展開

ブラザーグループは、CSR経営の実現に向け、グローバル憲章がグループ全従業員の活動の礎として共有され、日々の行動に表れている状態を目指し、継続的かつグローバルな共有活動に取り組んでいます。

グローバル憲章が制定された1999年以後2007年まではグローバル憲章の共有は進んでおらず、2007年に各拠点の経営層を対象に行った調査の「従業員はグローバル憲章を行動の基準にしているか?」という項目で「はい」の回答は、8%という状況でした。2008年、創業100年のタイミングで、グローバル憲章を時代の変化に合わせた表現や、従業員にとって理解しやすい内容へ改訂したことを機に、本格的に共有活動をスタートしました。

グローバル憲章を全従業員で共有していく環境づくりとして、27言語に翻訳し携帯用のポケット版カード(25言語)とポスター(27言語)を制作し各拠点に配布しました。ドイツ語やイタリア語のほかマレー語やネパール語など翻訳する言語は従業員の母国語とし、各地域にある拠点の責任者や従業員に協力を得て、より理解しやすい表現の翻訳になるよう工夫をしています。



ポケット版カードとポスター

各拠点の経営層は2008年以降毎年、グローバル憲章に基づくコミットメント(約束)を策定し、率先して行動に示しています。

各拠点や部門では、責任者が任命した共有リーダーが、活動計画を策定し共有活動を推進しています。共有リーダーは、研修の企画、朝礼や定例会でグローバル憲章に基づいて自身の行動を振り返る対話を行うなど、組織の役割や課題に即してさまざまな活動を行っています。

日本では2010年から、中国では2012年から、各組織で行っている共有活動や課題を話し合うための共有リーダー会を定期的実施しています。2016年には、中国の共有リーダーが日本の共有リーダー会に参加し共有活動のプロセスや創意工夫を発表し意見交換をするなど、グローバルに情報共有して共有活動の活性化に取り組んでいます。

このような活動を進めると同時に、CSR経営やグローバル憲章共有活動に関わる情報を共有するために開設したイントラネット(4言語)を活用して、重点方針の説明や各組織の活動計画、具体的な活動事例、経営層のコミットメント(約束)を従業員に共有しています。

従業員一人ひとりが自らの行動に対する意識を高め、新たな行動につなげるために、経営層からのメッセージ発信(10言語)や経営層との「直接対話」の機会を大切にしています。2017年度の経営層からのメッセージ発信は72件、直接対話は1,700回以上(前年比の約2倍以上)行われています。

ブラザーグループのCSR

ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

すべての活動の礎に---「ブラザーグループ グローバル憲章」の共有

全従業員でグローバル憲章を共有するために、継続的な共有活動を展開

2018年1月に開催した経営層によるグローバル憲章共有会議では、ブラザーグループの中期戦略「CS B2018」で示した、「Transform for the Future ~変革への挑戦~」に向けて「変革の起きやすい風土醸成」をどう実現していくか、経営層としてどのような発言や行動で効果的なコミュニケーションを図っていくかを、社長をはじめとする執行役員が議論しました。

グローバル憲章の共有状況は年1回の従業員への意識調査で把握しています。3万人以上の従業員の声が集約された2018年1月の調査では、「グローバル憲章を理解している」は4.31点、「グローバル憲章に基づく行動をしている」は4.38点、また「ブラザーで働くことを誇りに思っている」は4.40点(ともに5点満点)という結果でした。

「グローバル憲章の周知と理解促進」が共有方針・キーワードだった2008年から10年。愚直に共有活動を継続し、グローバル憲章は着実にブラザーグループに根付いてきています。



共有リーダーを担当する従業員の声

~前向きな提案や組織を超えた連携が広がる環境づくりに貢献~

兄弟機械(西安)有限公司

蘇 茜

兄弟機械(西安)有限公司は、グローバル憲章共有活動を通じ、「変革の起きやすい風土醸成」に力を入れており、従業員のチャレンジ事例の表彰や、組織の連携強化を目的とした社内講師による研修などを実施しています。また、大学の縫製技術の研究・実験などを私たち従業員がサポートするなど、工業マシン事業のノウハウを生かした社会貢献活動を展開しています。

2018年2月に中国、3月にベトナムで開催された製造・販売・開発拠点などの共有リーダーが集まる場では、改善例を全社に広げる情報発信の仕組みなど、私たち独自の活動を紹介しました。国や地域を超えたメンバーで良い事例を題材に意見交換を図り、拠点ごとでさらに工夫するなど、ノウハウのグローバル活用も広がってきています。今後も、従業員同士のつながりによって生み出されるチームワークを大切に、私たちのミッションとビジョンの実現に向け、明るく前向きな提案や組織を超えた連携が一層広がるような職場環境づくり、組織風土づくりに貢献します。

ブラザーグループのCSR

ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

すべての活動の礎に---「ブラザーグループ グローバル憲章」の共有

これまでの主な共有活動

年度	2008～2009	2010～2011	2012～2013	2014～2015	2016～2017
方針・キーワード	グローバル憲章の周知と理解促進	活動の自律化と対話の促進	行動促進と行動の日常化	チャレンジ風土醸成	変革の起きやすい風土醸成
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者公演会 ・管理職研修 ・経営層との直接対話の強化 ・経営層メッセージのイントラネット発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有活動の好事例の共有を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ行動の推進 ・行動の日常化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジを促進する職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「変革への挑戦」の促進 ・変革の起きやすい風土づくり
仕組み (構築年度に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミットメント(約束) ・共有リーダー任命 ・共有活動計画表 ・共有度調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営層共有会議 ・日本共有リーダー会 ・経営層メッセージベトナム語のイントラネット発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国共有リーダー会 ・経営層メッセージスロバキア語のイントラネット発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国7拠点横串共有リーダー会 ・共有活動の業務標準化 ・CSRの取り組みの計画と実績を、投稿・閲覧ができるイントラネットページの開設 ・従業員がチャレンジ事例を投稿できるイントラネットページの開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム4拠点横串共有リーダー会 ・CSR経営のイントラネットにベトナム語を開設
ツール (作成年度に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケット版カード(25言語) ・ポスター(27言語) ・DVD(5言語) ・情報共有用イントラネット(3言語) ・行動事例集 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話促進用の経営層メッセージ映像 ・共有活動のマニュアル一覧 ・e-Learning 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動を振り返る「コミュニケーションチェックシート」 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ風土を醸成するための「行動チェックリスト」 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任共有リーダー向けの「あるべき姿シート」 ・CS B2018「変革」映像

ブラザーグループのCSR

ステークホルダーの皆さまから信頼されるために

一人ひとりの行動のさらなる促進

中期戦略「CS B2018」 変革への挑戦

ブラザーグループは、中期戦略「CS B2018」において、「Transform for the Future ～変革への挑戦～」をテーマに「事業」「業務」「人財」の3つの変革を進め構造改革にチャレンジしています。グローバル憲章の共有においても2016年以降の方針・キーワードを「変革の起きやすい風土醸成」とし、活動を推進しています。

ブラザーU.K. Ltd.(以下、BUK)は、変化するビジネス環境とお客様の多様なニーズに対応するため、人材育成を重要な経営課題と捉え、さまざまな活動を推進しています。BUKでは、組織の戦略目標と結び付けられた個人の業務目標の進捗と達成過程を把握でき、加えて 今後の成長に必要な学習コンテンツを受講できるシステムを人材育成の基盤として構築しています。

また、従業員同士で、互いの優れた行動を認め称賛することを推奨しています。「難しい課題をやり遂げた」「いつも明るく前向きに仕事をしている」といった従業員に対して、本人に声掛けをするだけでなく、「ありがとうカード」を贈ったり、BUK独自の表彰制度「グローバル憲章表彰」に推薦したりするなど、従業員が主体的に取り組みを進めています。

「グローバル憲章表彰」は、「連携」「チームワーク」「チャレンジ」といった視点で、特に優れた行動を行った従業員に対して経営層が表彰する制度です。受賞者は、自組織の活動や自分たちの「連携」「チームワーク」「チャレンジ」につながる行動を共有し、組織を超えた相互理解と連携強化、さらには自分自身の成長へとつなげています。

このようなBUK独自の取り組みは外部からも評価されています。人材育成の国際的な認証機関であるInvestors in Peopleによって2016年、最高レベルの「プラチナ・ステータス」に認定されました。2017年には、100カ国以上の政府と協力して人材育成プログラムを開発するThe City & Guilds Groupが主催し、イギリス王室によって表彰される「Princess Royal Training Awards」を受賞しています。また、2018年には、同じくイギリス王室から持続的発展をしている企業と認められ「The Queens Award for Enterprise」を受賞しました。



BUKの従業員

ブラザーグループは、これからもステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ね、従業員にとって誇りの持てる企業の実現につながるよう、一人ひとりの行動のさらなる促進に取り組んでまいります。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

ブラザーグループでは、グループがグローバルに展開するすべての活動の礎であり、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に対する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」を1999年に制定しました。「ブラザーグループ グローバル憲章」では、お客様をはじめとするステークホルダーの皆さまに対するブラザーグループの責任を明確にし、グループ各社とグループ従業員が、それを実践することでCSR経営を推進して参りました。

一方で近年、持続可能な社会の実現のために、企業が社会のなかで果たすべき役割と責任はますます重要性が増し、ブラザーグループに対するステークホルダーの皆さまからの要請や期待もさらに高まってきております。

こうした変化に対応し、企業としての責任を明確に定義し行動していくために、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」を制定しました。これは、グループ各社が負う責任と行動の根本的な考え方を表明するものです。

本原則に基づき、ブラザーグループが一丸となって、事業を展開する全ての国や地域で求められる社会的責任を果たし、グローバルに統一感あるCSR経営を、積極的に推進していきます。そして、「Brother」というコーポレートブランドが、全てのステークホルダーの皆さまから信頼されるブランドとなること、ブラザーグループが、従業員にとって誇りの持てる真のグローバル企業として、社会とともに未来永劫に繁栄し続けることを目指します。

2012年1月27日
ブラザー工業株式会社

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

A. 健全な労働環境

ブラザーグループは従業員に健全な労働環境を提供することの重要性を認識し、すべての人に対して信義と尊敬を持って接し、基本的人権を守ります。また従業員にも同様の行動を求めます。

1. 差別および非人道的扱いの禁止

ブラザーグループでは、以下の差別および非人道的行為を禁じます。

- (1) 人種、年齢、性別、性的指向、妊娠、政治的信条、組合への加入、配偶者の有無、国籍、民族的背景、宗教、障がい等を理由にした違法な差別。
- (2) ハラスメントや嫌がらせ、体罰、精神的・肉体的強要、またはかかる対応を振りかざす行為によって人間の尊厳を傷つける行為。

2. 公正適法な労働慣行の維持

ブラザーグループは、労働時間、休暇、賃金、手当(最低賃金を含む)、残業等の労働条件について定めた現地の法令、管轄官庁の指導、または適切な現地の業界慣行に従うよう努めます。

3. 結社の自由

ブラザーグループは、活動する国や地域において法令によって従業員に認められる、結社の自由、労働組合に加入する権利、代表を要求する権利および労働者協議会に加入する権利を尊重します。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

4. 強制労働及び児童労働の禁止

ブラザーグループは、以下のような、本人の自主的な意思に反し労働を強制したり、児童を雇用したりすることを許容しません。

- (1) 強制労働または意志に反する囚人労働を利用すること。
- (2) 雇用の条件として公的に発行された身分証明書または労働許可証の引渡しを義務づけること。(身分確認や公官庁での手続きのために一時的に提出を求めることは除く)
- (3) 15歳未満の者(または当該国の法律が14歳の就労を認めている場合は14歳未満の者)および現地の法律が定める義務教育修了年に満たない者を雇用すること。
- (4) 18歳未満の従業員が健康と安全を危険にさらす業務を遂行すること。

5. 懲戒方針の明示

ブラザーグループは、懲戒方針を設ける場合は、その手続きと共に社内規程に明記し、従業員に周知します。

6. 内部通報

従業員が、本原則、各社の行動基準、その他の社内方針、現地の法令への違反行為を見聞きした場合は、その旨をブラザーグループ内のしかるべき立場の者まで通報することを勧めています。本原則、社内方針、適用される法令に対する違反行為が適正に通報された場合、ブラザーグループは、必要に応じ、かつ現地の法律で認められる限り、通報者の匿名性を守ります。また違反行為を通報した者に対し、従業員が報復的な措置を取ることを禁じます。

B. 職場の安全衛生

1. 職場の安全

ブラザーグループは、関係法令に従い、安全で衛生的な職場環境を整備します。またブラザーグループは、職場における従業員の健康と安全を守るために、以下の措置を講じます。

- (1) 肉体を酷使する作業、電気その他のエネルギー源、火災、車両、化学物質や生物的・物理的因子への曝露などの潜在的な危険を査定し、適切に管理する。
- (2) 安全対策を施し適切に設計された職場を維持管理するとともに、必要な安全用具を常備する。
- (3) 安全作業手順・制度を実施する。また従業員教育を継続するとともに、労働災害・労働疾病の予防、管理、追跡、報告のための制度を設ける。
- (4) 避難訓練や復旧計画など、緊急事態および事故の発生を想定した対策ならびに対応手順を導入する。

2. 衛生的な設備

ブラザーグループは、従業員およびブラザー社内で働く第三者のために、清潔なトイレおよび給水設備を整備します。また調理・飲食施設がある職場では、かかる施設を衛生的に保ちます。

寮がある場合は、十分な維持管理を行い、清潔・安全に保ちます。また適切な非常口を設けるとともに、シャワー用の設備、適切な温度および換気設備、個人スペースを提供します。なお、以上についてはいずれも各国や地域の基準に準ずるものとします。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

C. 地球環境の保全

ブラザーグループは、ブラザーグループ環境方針を定め地球環境の保全に努めます。具体的には、持続的発展が可能な社会の構築に向け、設計から開発、生産、使用、廃棄、再利用、再生に至る製品ライフサイクルの各段階を含む企業活動のあらゆる面で、必要とされる環境上の許可証、認可を取得するとともに、製品に含まれる物質の規制など国内外で適用されるすべての環境関連法令を順守します。さらに、汚染防止策や省資源化に努めます。

D. 倫理的誠実な事業活動

ブラザーグループは、企業活動のあらゆる面において、最高度の倫理観を持ち、最大限の誠意を尽くして行動します。

1. 公正な取引

ブラザーグループは、活動を行う国や地域において適用される公正な取引や市場競争に関する法令を順守し、市場での公正かつ自由な競争を阻害するような行為は行いません。また物品やサービスの調達に当たっても調達先の選定や取引条件の決定を公正に行います。

2. 適正広告

ブラザーグループは、関係する適正広告基準を守ります。誤解を招くような内容や、事実と異なる内容の広告を行わないよう努めます。

3. 不正便宜の禁止

ブラザーグループは、形式の如何を問わず、汚職、強要、横領に一切かかりません。また賄賂はじめ過剰または不適切な便宜を供与したり、受けたりしません。

4. 偽りのない正しい企業情報の記録及び開示

ブラザーグループは、財務関係記録を始めとする全ての必要な記録および報告を正確かつ適時に作成し、保管します。また、ブラザーグループは、関係法令に従い、株主、投資家および資本市場が十分な情報を得た上で投資判断を下すことができるように、財務状況ならびに事業情報を正確かつタイムリーに開示します。

さらに、ブラザーグループは、従業員が、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネットメディア等に一個人として情報を発信する場合に、それがブラザーグループの公式見解と誤認されることがないように、従業員に適切な行動を求めます。

5. 情報管理

ブラザーグループは、厳格な情報管理制度を運用し、従業員が、ブラザーグループ各社、その他の組織、またはお客様に関する機密情報を、本人の承諾を得ずして、不法に第三者に開示することがないようにします。

6. 個人情報保護

ブラザーグループは、お客様、お取引先、および従業員のプライバシーを尊重し、現地のプライバシー関連法に依拠して、個人情報へのアクセスの制限や、セキュリティ対策を講じます。またブラザーグループは、お客様や従業員の名簿を含む個人情報を安全に管理するとともに、現地の個人情報保護法および自社のプライバシー保護方針の下で認められた場合を除き、または別途許可を受けた場合を除き、個人情報を入手しません。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

7. インサイダー取引の禁止

ブラザーグループは、従業員に違法なインサイダー取引にかかわらないことを求め、インサイダー取引を予防する措置を講じます。違法なインサイダー取引とは、一般的に、ある株や証券についての重大な事実を知る者が、その事実が公表される前に当該株や証券を売買する行為を指します。

8. 知的所有権の保護

ブラザーグループは、ブラザーグループの知的所有権(特許権、商標権、著作権を含みますが、これだけには限定されません)の確保、維持、充実に努めます。また第三者の知的所有権を尊重します。ブラザーグループは、故意に他者の知的所有権を侵害しません。

E. 本原則実践のための社内体制

ブラザーグループは、本原則を実践するために、以下の各号を目的とする体制を整備します。

- (1) ブラザーグループ各社にて、本原則で定める水準を満たす各社の行動基準及び社内規程等を制定し、従業員にその順守を求める。
- (2) 本原則および各社の行動基準の運用はブラザーグループ各社の組織に応じ責任部門を明確にする。
- (3) 従業員が各社の行動基準を順守するための教育を継続的に行う。
- (4) 本原則および各社の行動基準が順守されていることを確認するために定期的に監査を行う。
- (5) 監査の結果、問題が発見された場合は、適時その解決をはかる。

ブラザー工業株式会社の法務担当執行役員は、ブラザーグループ各社における上記体制の実施状況を確認し、統括するとともに、社内体制のあり方を適宜に見直すものとします。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ブラザーグループは、世界の各地域で多くの事業を展開しています。そのような中でCSR経営を推進するために、各地域は、すべての活動の礎である「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)に基づいて抽出したCSR経営の課題に対し、それぞれの業務の特性、地域の文化・慣習を考慮して、自律的な取り組みを行っています。

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
お客様	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面でお客様第一を考える グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応える 定められた事業領域内で限られた経営資源を有効活用する 相互協力のもと、お客様中心の事業一貫経営をグローバルに展開する 	お客様第一のマーケティング・商品企画・開発設計(各事業)
		お客様の期待にお応えする設計品質(各事業)
		お客様ご迷惑率を低減させる設計品質(各事業)
		お客様ご迷惑率を低減させる製造品質(各事業)
		お客様第一の販売・サービス体制(各事業)
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の多様性を尊重する 人格、多様性の尊重、信義と尊敬 	多様な人材の確保
		多様な働き方の支援
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員がさまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する 	各地域での人材育成
		次世代の成長を担うグローバル人材の育成
		安全衛生・防災
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の努力と成果に対して、公平な評価と正当な報酬で応える 従業員に社会の模範となる行動を求める 従業員に会社との価値観の共有を求める 	健康経営の推進
		適切な評価制度
		グローバル憲章の共有
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> 常に公平・公正な取引を行う 信頼関係に基づいて成長しあう 	従業員が誇りをもって働ける職場風土創り
		最高度の倫理観の醸成
		CSR調達の推進
		仕入先パートナーとの協働
		物流パートナーとの協働
		販売パートナーとの協働

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
株主	・ 積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築く	IRコミュニケーション
		社会的責任投資株価指数の構成銘柄
地域社会	・ 地域に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する	「地球環境への配慮に関連した活動」「『地域』『人づくり(従業員を含む)』を意識した活動」にテーマを絞った各地域での自律的な社会貢献活動
		グローバルに統一感を持った社会貢献活動
環境	・ 持続的な発展が可能な社会の構築に向け、企業活動のあらゆる場面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行う	CO ₂ 排出量・廃棄物削減の推進(地球温暖化の防止)
		消耗品・製品の回収リサイクル(循環型社会形成)
		化学物質や排水の適正管理
		環境社会貢献活動の実施(可能な限り生物多様性を意識した活動)
		環境コミュニケーションの実施(「Brother Earth」、イベント、教育など)
ガバナンス	・ 活動する国や地域における関連法規、規制を遵守し、文化を尊重する ・ 最高度の倫理観を持って行動する	グローバルガバナンス体制の構築
		内部統制の推進
		コンプライアンスの推進
		情報セキュリティの推進

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2017年度の活動計画と実績、および2018年度の活動計画

2017年度の活動計画と実績

ステークホルダー	2017年度の活動計画	2017年度の実績
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様にとっての価値の基盤となる安定した品質の製品・サービスの提供 ・SMB*や産業用領域への新たな顧客価値の創出 ・ショールームやSNS・Webを利用した、ブラザーブランドの認知度向上 ・各種製品・サービスの開発に直結した、お客様訪問調査による顧客価値の向上 <p>*: Small Medium Businessの略称。 小規模な事業所や中小企業、複数拠点に分散する企業のオフィスなど。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルに顧客訪問調査を実施し、お客様の使用状況に適した価値を提供 ・SMB*や産業用領域への新たな価値提供のための商品開発 ・Webを利用したお客様チャットサービス(中国) ・ショールームでの製品やブラザーの歴史資料展示による、ブラザーブランドの認知度向上 ・製品の設置環境や使用状況に関する情報を収集解析して、現実に即した検査・評価技術や手法を確立し、工場での検査のみならず設計から原材料・部品レベルでの信頼性も担保できるよう、全社挙げての活動を実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル憲章浸透活動、および拠点間連携の促進 ・ブラザーグループ中期戦略CS B2018達成に向けた風土醸成活動 ・グローバル人材育成(海外拠点幹部人材育成、グローバル採用) ・女性活躍推進 ・働きやすい職場環境の整備とワークライフバランスの推進 ・安全衛生・防災活動の推進 ・次世代リーダーの育成 ・従業員が誇りをもって働ける職場風土創り ・従業員意識調査による満足度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「変革の起きやすい風土醸成」をテーマにしたグローバル憲章浸透活動を各拠点で実施 ・グローバル共通での幹部人材教育や、拠点の特性に応じた専門教育の実施 ・従業員のチャレンジ意識向上プログラムの実施 ・社内の女性活躍推進ワーキンググループの提言を受け、キャリア支援や健康で効率的に働ける環境の整備などの施策を展開 ・「健康経営優良法人」に認定(日本)
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達の推進 ・ビジネスパートナーとのCSR勉強会の実施 ・ビジネスパートナーとブラザーグループ相互のCSR活動紹介 ・優秀ビジネスパートナーの表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点でビジネスパートナーとのCSR調達などの勉強会、アンケートの実施 ・取引先でのCSR活動事例や今後の課題・計画をブラザーのWebサイトで紹介 ・製造拠点にて優秀取引先を表彰

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2017年度の活動計画と実績、および2018年度の活動計画

2017年度の活動計画と実績

ステークホルダー	2017年度の活動計画	2017年度の実績
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に対する復興支援 ・グローバルで一体感を持った社会貢献活動(リレー・フォー・ライフをはじめとするがん患者を支援するチャリティーイベント)への従業員参加 ・それぞれの地域に密着した社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本震災・熊本震災など、大規模災害に対する継続的な復興支援 ・グローバルで一体感を持った従業員参加の社会貢献活動ゴールデンリングプロジェクト(リレー・フォー・ライフをはじめとするがん患者を支援するチャリティーイベント)に世界19の拠点が参加 ・拠点が所在する地域の医療体制への貢献や教育への支援、清掃活動の実施
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラザーグループ全体でのCO2排出量削減目標を実現するための省エネ活動 ・使用済みカートリッジの回収活動 ・ISO 14001活動 ・環境スペシャルサイト「brotherearth.com」による環境意識の向上 ・ブラザーグループエコポイント活動 ・植樹活動 ・地域と協力した環境保全活動 ・生物多様性保全・愛知目標の周知活動 ・環境配慮製品の継続的な創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点ごとにCO2排出量の目標値を設定し省エネ活動を実施 ・使用済みのトナー/インクカートリッジ回収活動をグローバルで展開 ・拠点ごとに廃棄物の目標値を設定し、事業活動で発生する廃棄物の削減やリサイクルを実施 ・環境スペシャルサイト「brotherearth.com」を通じた環境保護活動の支援 ・世界各国の拠点で地域社会と協力した植樹活動を実施

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2017年度の活動計画と実績、および2018年度の活動計画

2018年度の活動計画

CSR経営の課題に対して、各地域が取り組む2018年度のさまざまな活動計画から、代表的な取り組み計画を抜粋してステークホルダーごとに掲載しています。

ステークホルダー	2018年度の活動計画
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様にとっての価値の基盤となる安定した品質の製品・サービスの提供 ・ SMB*や産業用領域への新たな顧客価値の創出 ・ ショールームやSNS・Webを利用した、ブラザーブランドの認知度向上 ・ 各種製品・サービスの開発に直結した、お客様訪問調査による顧客価値の向上 <p>*: Small Medium Businessの略称。 小規模な事業所や中小企業、複数拠点に分散する企業のオフィスなど。</p>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル憲章浸透活動、および拠点間連携の促進 ・ ブラザーグループ中期戦略CS B2018達成に向けた風土醸成活動 ・ グローバル人材育成(海外拠点幹部人材育成、グローバル採用) ・ 女性活躍推進 ・ 働きやすい職場環境の整備とワークライフバランスの推進 ・ 安全衛生・防災活動の推進 ・ 次世代リーダーの育成 ・ 従業員が誇りをもって働ける職場風土創り ・ 従業員意識調査による満足度の向上
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSR調達の推進 ・ ビジネスパートナーとのCSR勉強会の実施 ・ ビジネスパートナーとブラザーグループ相互のCSR活動紹介 ・ 優秀ビジネスパートナーの表彰
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害に対する復興支援 ・ グローバルで一体感を持った社会貢献活動(リレー・フォー・ライフをはじめとするがん患者を支援するチャリティーイベント)への従業員参加 ・ それぞれの地域に密着した社会貢献活動
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラザーグループ全体でのCO₂排出量削減目標を実現するための省エネ活動 ・ 使用済みカートリッジの回収活動 ・ ISO 14001活動 ・ 環境スペシャルサイト「brotherearth.com」による環境意識の向上 ・ ブラザーグループエコポイント活動 ・ 植樹活動 ・ 地域と協力した環境保全活動 ・ 生物多様性保全・愛知目標の周知活動 ・ 環境配慮製品の継続的な創出

ブラザーグループのCSR

CSRデータ

数字で見るブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSRに関連する主な数字を、一覧表にまとめました。

ブラザーグループ グローバル憲章

ブラザーグループ グローバル憲章	1999年制定
翻訳言語	27言語
経営層と従業員の対話*	1,700回以上

*: 2017年度

その他の情報は「ステークホルダーの皆さまから信頼されるために」

<https://global.brother/ja/csr/brothergroup/management>

コーポレートガバナンス

取締役*	11名(うち社外取締役5名)
監査役*	5名(うち社外監査役3名)
役員*	34名(うち外国人1名)
ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則	2012年制定
グローバル内部監査会議	2010年開始
グループ情報管理規程	2015年制定(ブラザー工業は2008年)

*: 2018年6月26日現在

その他の情報は「コーポレートガバナンス」

<https://global.brother/ja/corporate/governance>

お客様

生産拠点や販売・サービス拠点	40以上の国と地域	
製品安全に関する基本方針	2008年制定	
売上収益*	連結 712,997百万円	
地域別売上収益構成比*	日本	17.0%
	米州	29.4%
	欧州	25.4%
	アジア他	28.2%

*: 2017年度

その他の情報は「お客様とともに」

<https://global.brother/ja/csr/stakeholder/customer/development>

ブラザーグループのCSR

CSRデータ

数字で見るブラザーグループのCSR

従業員(ブラザー工業)

従業員数*1	連結 38,628名 / 単独 3,937名
障がい者雇用率*2	2.23%
女性管理職比率*1	3.69%(31名)
育児休職制度の利用者*3	61名(うち男性は19名)
介護休職制度の利用者*3	3名(うち男性は1名)
育児のための短時間勤務者*2	156名(うち男性は6名)
介護のための短時間勤務者*2	2名(うち男性は1名)
看護休暇の利用者*2	31名(うち男性は9名)
在宅勤務制度の利用者*3	57名(うち男性は6名)
ブラザーグループ健康経営理念	2016年制定
生産拠点労働災害件数*2	26件
生産拠点労働災害千人率	1.03
グローバル安全防災大会	2008年開始

*1: 2018年3月31日現在

*2: 2017年度

*3: 2017年度の取得開始者数

その他の情報は「従業員とともに」

<https://global.brother/ja/csr/stakeholder/employee/secure>

ビジネスパートナー

調達方針とCSR調達基準	2008年制定
グリーン調達	2001年開始
CSRアンケート	2012年開始(3年ごとに実施)
CSRアンケート集計数*	500社以上

*: 2015年度

その他の情報は「ビジネスパートナーとともに」

<https://global.brother/ja/csr/stakeholder/partner/csr>

ブラザーグループのCSR

CSRデータ

数字で見るブラザーグループのCSR

株主*1

決算説明会	年4回
株主通信	年2回発行(通期号は招集ご通知と合冊)
個人投資家向け会社説明会*2	計3回
モーニングスター社会的責任投資株価指数	2008年から10年連続で選定
SNAMサステナビリティ・インデックス	2012年から6年連続で選定
健康経営優良法人	2017年から2年連続認定

*1: 決算情報は株主/投資家情報「決算短信・決算説明会資料」をご覧ください。
<https://global.brother/ja/investor/financial-info>

*2: 2017年度

その他の情報は「株主とともに」

<https://global.brother/ja/csr/stakeholder/shareholder/investor>

地域社会

東海若手起業塾	2008年協賛開始(ブラザー工業)
ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加*	22拠点

*: 2017年度

その他の情報は「地域社会とともに」

<https://global.brother/ja/csr/stakeholder/society/global>

ステークホルダーの皆さまとともに



ブラザーグループは、従業員の自発的な行動で、あらゆるステークホルダーから信頼される活動を一つ一つ積み重ねていきます。

お客様とともに

- お客様第一の製品開発
- 期待に応える設計品質
- 販売・サービス体制

ビジネスパートナーとともに

- CSR調達の推進
- お取引先の声

地域社会とともに

- グローバルな社会貢献活動
- 各地域での社会貢献活動

従業員とともに

- 多様な人材の確保
- 多様な働き方の支援
- 人材育成
- 安全衛生・防災
- 健康経営の推進

株主とともに

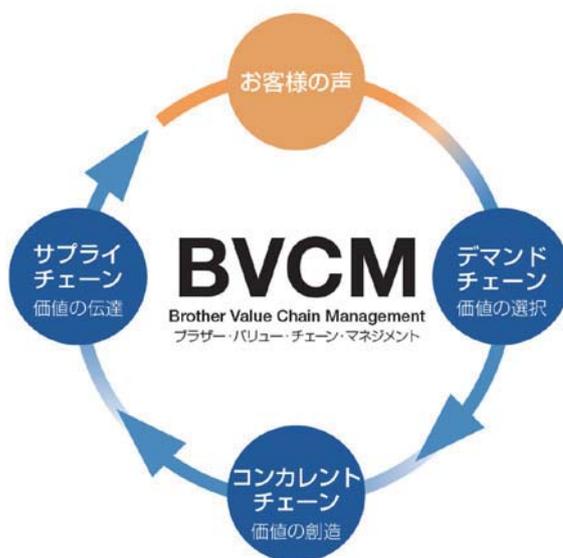
- IRコミュニケーション
- 外部からの評価

お客様とともに お客様第一の製品開発

「お客様の声」を事業活動の起点とし、ニーズに合った製品・サービスを提供

各部門が情報共有しながらお客様のご要望を迅速にカタチにする

ブラザーグループは、独自のマネジメントシステム「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」(以下、BVCM)を実施し、"At your side."の精神で、より優れた製品・サービスをお届けしています。



お客様の声にお応えするための独自のマネジメントシステム

BVCMの中の「コンカレントチェーン」では、デマンドチェーンでまとめられた製品コンセプトを具体的なカタチにします。試作の前後にシミュレーションや想定されるお客様によるモニター試験を何度も行い、高い品質レベルを実現しながら、迅速に開発設計を行います。

また、生産技術担当部門では、お客様が望むタイミングで製品を提供できるように最適な生産ラインを設計します。

各部門が情報共有しながら同時進行で製品化に向けて取り組むことにより、お客様のご要望を迅速にカタチにすることが可能となります。

お客様とともに お客様第一の製品開発

お客様のさまざまなご要望に応える製品開発

全世界の小規模オフィスなどのユーザーがストレスなく使用できるプリンターの開発

お客様のご要望を聞くのと同時に競合他社製品を徹底的に分析し、「全世界の小規模オフィスなどのユーザーがストレスなく使えるモノクロレーザープリンター」を製品コンセプトとしました。

全世界のお客様のご要望は、高速印刷や大容量トナー、多目的トレイの搭載、高温・多湿環境下での印刷など、さまざまです。これら要望を具現化するために、新たに14のキーとなる要素技術を開発することを決めました。これらの要素技術を同時に開発し、かつ、迅速な検討と意思決定が行えるよう、少人数で構成したワーキンググループを立ち上げました。これにより、お客様の使いやすさも考慮した開発を進めることができました。

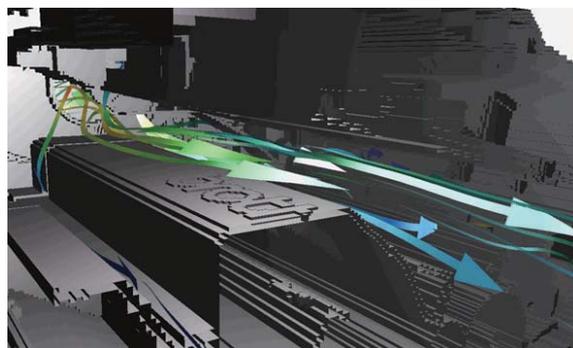
開発部門以外のメンバーもワーキンググループに参画・協業し、操作性レビューを何度も行い、お客様に満足いただける製品開発を目指しました。

苦労したのは、これら多くの機能を追加しても現行機種のみであるコンパクトな本体サイズを維持することです。スタンダードモデルに搭載されている基本機構の小型化と配置の最適化を行い、本体内部に新たなスペースを生み出しました。そのスペースに合わせて、大容量用トナーや多目的トレイ用の機能ユニットを設計することで、機能を追加したモデルでもコンパクトな本体サイズを実現しました。また、コンパクトな本体に多数の機能を追加したことにより、現行機種よりも効率的な冷却システムが必要になりましたが、空気の流れを可視化するシミュレーションを関係部門と連携して行い、効率的な冷却システムを開発できました。これにより、高温・多湿な使用環境下でも連続フルスピードでの印刷が可能となりました。

ブラザーグループは、これからもお客様のご要望を迅速にカタチにするため、製品コンセプトのもと情報を共有しながらスピーディーに意思決定して、価値の提供に取り組んでいきます。



操作性レビュー



可視化した空気の流れ

お客様とともに 期待に応える設計品質

お客様に評価され選ばれる製品をご提供するために

お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方

世界中の国や地域でご利用いただいているブラザー製品は、その設置環境や使用方法が多様になっています。また、お客様のライフスタイルの変化に伴い、製品に対する期待も日々変化しています。

品質保証担当部門では、市場で起きた様々な問題に関わる情報をデータベース化したり、競合他社の新製品を評価したりして、そこから得られた情報から製品の品質基準と評価方法を構築しています。さらに、お客様が安心して製品を使い続けることができるように、その対策を設計段階から織り込み、ブラザーらしさを体感していただける製品づくりをしています。

この目標値を明文化したものが「顧客品質基準」であり、製品開発にブラザーグループのモットーである"At your side."の精神を反映したものです。「顧客品質基準」は固定されたものではなく、修理依頼やコールセンターに寄せられる情報、あるいは製品に対するお客様の期待の変化に伴い、常に精査して見直しを図っています。

お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方

ブラザーグループでは、お客様から返品または修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と呼んでいます。これは、どんな小さな不具合でも、そのためにご負担いただかなければならない時間や手間は、お客様にとって「ご迷惑以外の何ものでもない」という考え方によるものです。

不具合発生を限りなくゼロに近づけるため、それがなぜ起こっているのかを究明し、開発設計・製造・物流・販売・サービスなど各部門が一体となって品質向上活動を続けています。

お客様とともに 期待に応える設計品質

技術を結集し、ガーメントプリンターの新インクを開発

印刷時間の短縮と、べたつかず柔らかな肌触り、鮮やかな発色を実現

パソコン上で作成したイメージをTシャツなどの衣類に印刷できるガーメントプリンターのユーザーから、印刷時間を短縮して欲しいという要望があり、新機種では従来とは異なるプリントヘッドを採用することが決まりました。しかし、新しく採用されたプリントヘッドは、その特性上、従来のインクをそのまま使用できません。また、印刷した衣類を着られるお客様からは、印刷面がべたつかず柔らかな肌触りと鮮やかな発色を要望する声が上がっていました。

これら異なる2つの要望を満たすため、インクの開発が急務でした。

新機種に採用するプリントヘッドでは従来使用していたインクでは粘度が高すぎたため、大幅に低粘度化させることが必要でしたが、従来のインクをそのまま低粘度化すると、洗濯したときに、色落ちが発生します。

低粘度でありながら、洗濯に耐えうる品質を実現するため、インクに含まれるポリマー成分の化学構造を大きく見直し、従来機種のインクよりも2分の1以下の低粘度でありながら、洗濯時の耐久性を実現し、さらに印刷面のべたつき抑制と柔らかな手触りにすることができました。



印刷面の手触りを確認



課題解決に向けて議論

発色については、インクの着色粒子を細かくすることで、鮮やかさを向上させることができました。しかし、粒子が細くなることでインクの長期保存性が低下します。

そこで、粒子の細かさとインクに含まれるポリマーやその他の材料の配合を微妙に変えながら、何回も調整を繰り返して最適な組み合わせを見つけました。さらに製造工程を見直したことも鮮やかな発色と長期保存の両立を可能にしました。

このように、さまざまな課題を解決して、印刷時間を短縮するために採用したプリントヘッドに対応しつつ、印刷面がべたつかず柔らかな肌触りと鮮やかな発色をする新インクを開発しました。

ブラザーグループは、これからもお客様が喜ぶ顔をどんな技術で実現するか、どんな製品でお客様の役に立つことができるかを常に考えながら価値創造に取り組んでいきます。

お客様とともに 販売・サービス体制

お客様の声に耳を傾けることで生まれる対応力と連携

事業環境にあわせ、自ら変化できる企業であり続ける

多様化するツールや市場、お客様の行動の変化など、事業環境はめまぐるしく変化しています。これに対応していく上で大切なのが「柔軟な対応力」と「パートナーとの連携」だと考えています。

お客様の声に耳を傾け、これまで培ってきた技術や知見、販売ルートやノウハウを生かしつつ、足りない部分や経験の浅い分野には、パートナーと適切に連携しながら柔軟に対応していきます。

そうすることで自ら変化できる企業であり続けたいとブラザーは考えています。

アメリカの在宅医療現場にモバイルプリンターが貢献

患者宅でのスムーズな印刷によって医療効率が向上

アメリカでは、家庭で医学的リハビリテーションを行う傾向が高まり、それに伴い在宅医療機関および訪問看護件数が増加しています。

また、2017年1月に、アメリカの主要な医療保険制度を運営する機関であるCMS(the Centers for Medicare & Medicaid Services)は規則を改訂し、CMSのプログラムを適用している在宅医療機関は患者に対して投薬リスト、治療スケジュール、治療指示など介護計画を書面で提供する、と決めました。

これらにより、患者宅で介護計画などを印刷する新たなニーズが生じました。

アメリカの販売拠点であるブラザーモバイルソリューションズ(U.S.A.)Inc.は、こういった在宅医療の現場で求められる印刷環境を把握し、軽く小さいため持ち運びが容易で多くのソフトウェアで標準になっているレターサイズ(8.5×11インチ)が印刷できるモバイルプリンター「PocketJet」の導入を在宅医療機関に提案しました。



患者宅を訪問



医療データをその場で印刷

在宅医療機関は「PocketJet」の導入によって、CMSが定める規定に沿って必要な書面をスムーズに印刷できるようになりました。患者と介護者はわかりやすく正確な介護計画資料を受けとることができるようになりました。さらに、書面を手書きで作成していた時と比較し、事務作業時間を1件あたり約20分、短縮することができたため、患者のケアの時間や1日に訪問する患者数を増やすことが可能となりました。

ブラザーグループは、これからもお客様の声に耳を傾け、市場の求める要請に柔軟に対応していきます。

お客様とともに 販売・サービス体制

お客様からのご要望を受け、グローバル体制でリサイクル活動を推進

それぞれの拠点で展開できるヒントやノウハウを得るグローバル・リサイクルサミットを開催

循環型社会の形成へ向け、高い環境意識を持ったヨーロッパのお客様からのご要望を受け、2004年から使用済みトナーカートリッジのリサイクルをブラザーインダストリーズ(U.K.)Ltd.(以下、BIUK)で始めました。その後、リサイクルの取り組みはスロバキアやアメリカ、日本などグローバルに展開し、現在ではBIUKのリサイクル・テクノロジーセンターがブラザーグループのリサイクル中枢拠点となり、さまざまな活動を行っています。

2011年からは毎年、新品同様の高品質なリサイクル製品を効率的に生産するために、グローバル・リサイクルサミット(以下、サミット)を開催しています。

2017年はブラザーインダストリーズ(スロバキア)s.r.o.で開催し、BIUKやブラザーインダストリーズ(U.S.A.)Inc.、ブラザー工業株式会社などから45名を超える従業員が集まりました。

サミットでは、トナー回収活動やリサイクル技術の共有、改善事例を現場で確認するなど、参加した従業員がそれぞれの拠点で展開できるヒントやノウハウを得る場となっています。



サミットで他拠点の活動について聞く従業員



BIUKのクリーンルーム

また、サミットでのコミュニケーションがきっかけとなり、トナーカートリッジの設計にリサイクル視点でのノウハウを反映するため、日本のトナーカートリッジの開発担当者がBIUKに3カ月滞在して、リサイクル技術について学ぶ人材交流も行っています。

ブラザーグループは、これからもグローバルに技術や情報を共有し、お客様が求める品質のトナーカートリッジのリサイクルを進め、循環型社会の形成に取り組んでいきます。



グローバル・リサイクルサミットの責任者から ~今後も、グローバルベースでトナーカートリッジのリサイクル活動を推進~

ブラザーインダストリーズ(U.K.)Ltd. 社長
Craig McCubbin

グローバル・リサイクルサミットは、開発・生産・販売といったさまざまな分野の関係者を集め、最善のリサイクル手法を横展開したり、お客様の声を聞いたりする絶好の機会です。

今後も同活動を継続し、グローバルベースでトナーカートリッジのリサイクル活動を推進していきます。

従業員とともに 多様な人材の確保

雇用・処遇に関する基本方針

多様な人材が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループは、40以上の国と地域に生産拠点や販売・サービス拠点を設け、世界中のお客様に製品やサービスをお届けしており、人種・言語・文化・習慣など、事業を取り巻く環境がさまざまに異なる中で、全従業員がグローバルチームブラザーの一員として、日々活躍しています。

その基盤となるのが「ブラザーグループグローバル憲章」(以下、グローバル憲章)の「基本方針」に掲げた「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬で応える」という考え方です。また、グローバル憲章の行動規範では「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」ことを定めています。ブラザーグループ各社は、これらの考え方に基づいて、採用・評価・昇進などにおいて、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無など、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。今後も経営層と従業員が一体となって、関連法規、規則の順守はもちろん、各自の文化や慣習を尊重し、グローバル憲章に基づいた人事制度の進化、職場環境の継続的な改善に取り組んでいきます。

公正な評価と処遇を目指した目標管理制度

ブラザーグループは、意欲・能力・成果を公平・公正に評価して処遇に反映するための体制を構築しています。例えばブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)では、一般従業員については、明確な評価基準に基づく目標管理制度のもと、納得性の高い評価を実施しています。評価の結果は被評価者に公開し、その後の面談においてその評価理由を伝えています。こうすることで、従業員が自らの仕事を振り返り、新たな目標に向かって成長していくためのモチベーションも高まるため、人材育成にもつながっています。管理職に関しては、年俸制を採用しています。

従業員とともに 多様な人材の確保

多様な人材を確保するために

女性管理職の登用を推進

女性管理職については、各国・各地域で、女性の社会進出の歴史、生活文化、主な職種などが異なるため、全管理職者数に対する比率に差はあるものの、珠海兄弟工業有限公司(中国)をはじめ、多くの拠点で女性が活躍しています。

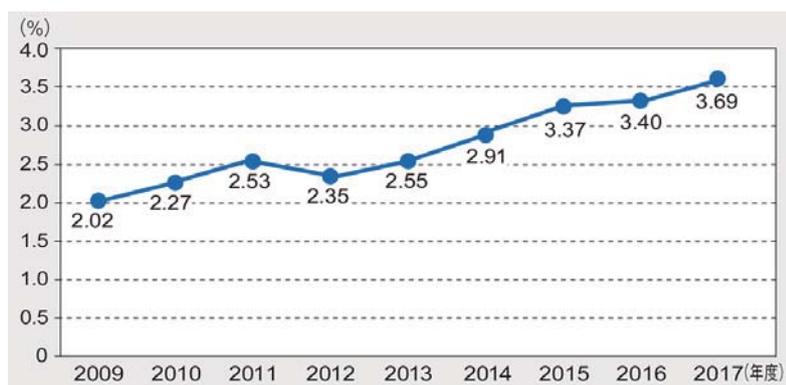
ブラザーグループの女性管理職者数と比率

社名[国]	2017年3月		2018年3月	
	数	比率	数	比率
ブラザー工業株式会社[日本]	28名	3.4%	31名	3.7%
ブラザー販売株式会社[日本]	2名	2.3%	2名	2.3%
兄弟高科技(深圳)有限公司[中国]	43名	32.3%	43名	33.3%
珠海兄弟工業有限公司[中国]	22名	62.9%	19名	61.3%
兄弟機械(西安)有限公司[中国]	2名	6.9%	4名	12.9%
ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)[アメリカ]	76名	35.8%	76名	40.2%
ブラザーインターナショナル(ヨーロッパ)Ltd.[イギリス]	7名	15.6%	8名	16.0%
ブラザーU.K. Ltd.[イギリス]	14名	35.0%	15名	37.5%
兄弟(中国)商業有限公司[中国]	9名	28.1%	7名	25.0%
ブラザーインターナショナル(ドイツ)GmbH[ドイツ]	6名	18.8%	5名	15.6%
ブラザーフランスSAS[フランス]	13名	37.1%	12名	37.5%
ブラザーインダストリーズ(ベトナム)Ltd.[ベトナム]	37名	35.6%	37名	34.6%

従業員とともに 多様な人材の確保

多様な人材を確保するために

女性管理職比率の推移(ブラザー工業株式会社)



障がい者の雇用推進と活躍支援

日本では、一定規模以上の企業に対して、総従業員数の一定割合以上の障がい者を雇用することが法律で定められています。(2017年度2.0%以上、2018年度2.2%以上)

障がい者法定雇用率は近年引き上げ傾向にありますが、ブラザー工業は法定基準を満たす雇用率を維持しており、2017年度の雇用率は2.23%となっています。

障がいを持つ従業員も、それぞれの適性・能力に合った職種・職場で活躍しています。

障がい者雇用率の推移(ブラザー工業株式会社)



ブラザー工業は、グローバル憲章の「行動規範」にある「個人に対する信義と尊敬」に基づき、障がいの有無に関わらず、従業員同士が理解を深め、連携を強化して個々の能力を最大限に発揮できる職場環境をつくっていく方針を引き続き展開しています。

「障害者の雇用の促進等に関する法律」などの法律の改正に合わせ、法律の概要と考え方を学ぶeラーニングや、具体的な行動を促進するためのブラザーグループ内のジョブコーチによる学習の場を設けています。また、障がいを持つ従業員から相談を受けるなどの役割を担う、「障害者職業生活相談員」を各工場の従業員から選任し、相談員を対象にした継続的な知識向上プログラムを、外部講師を招き実施しています。このように、障がいを持つ従業員を職場全体で理解しサポートできる体制を構築しています。

従業員とともに 多様な働き方の支援

ダイバーシティを推進するために

ブラザーグループは、従業員が多様なライフスタイルを選択できるよう、各国・各地域の法律、労働環境、従業員の状況を踏まえ、多様な働き方を支援しています。「真のグローバル企業」として、能力、人格、資質、行動に優れた人材が国境を越えて、適材適所に配置され、グループを牽引できるよう、制度の充実や従業員の意識改革活動を行い、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)は、これまでの取り組みが評価され、経済産業大臣が表彰する平成27年度「新・ダイバーシティ経営企業100選」を受賞しました。これからも性別・国籍・障がいの有無にかかわらず、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供していきます。



「新・ダイバーシティ経営企業100選」

社外からの評価

認定先	認定年度	認定名
経済産業省	2015	 「新・ダイバーシティ経営企業100選」受賞
厚生労働省	2011	 次世代育成支援対策推進法認定事業主「くるみん認定」
	2014	「ファミリー・フレンドリー企業部門」厚生労働大臣優良賞
愛知県	2012	 「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」特別賞
	2015	 「あいち女性輝きカンパニー」認証
名古屋市	2011	 「名古屋市女性の活躍推進企業」認定
	2011	 「名古屋市子育て支援企業」優秀賞

従業員とともに 多様な働き方の支援

女性活躍推進のための活動

ワーキンググループ「Teamあじさい」が、課題を明確にして施策を提言

ブラザー工業で働く全ての女性が、さまざまな能力を発揮して今以上に活躍できる職場環境の実現を目指し、女性従業員で構成するワーキンググループ「Teamあじさい」を2014年度に立ち上げました。2016年度には、さまざまな立場から議論を行えるよう新たに男性をメンバーに加え、女性の活躍を推進していくための課題を明確にし、その課題に対する施策を提言しました。

ブラザー工業は、提言に基づいて「女性活躍推進に関する宣言」や、「女性活躍推進に関する行動計画」の策定、在宅勤務制度の導入、有識者を招いての講演会を積極的に行っています。

提言の中には、社内のロールモデルとなる従業員のキャリアを知りたいとあり、イントラネット上で社内の女性管理職のこれまでのキャリアを紹介したり、少人数の社内座談会「キャリアコミュニティ」を実施したりしています。

また、キャリア形成のための海外勤務経験の必要性も挙げられ、2017年度には、若手従業員が海外勤務経験を積む従来のトレーニー制度を拡充し、入社3・4年目の従業員を対象とする事務系海外派遣制度を導入しました。

このように海外拠点でのOJTと幅広い経験を通じて、男女問わず、将来の活躍の場を広げる機会を設けています。



「Teamあじさい」メンバー



キャリアコミュニティ



トレーニー制度利用者の声

~同じ目標に向かって関係者を巻き込み、試行錯誤を重ねながら、さまざまな学びや気づきを得る~

ブラザー工業株式会社 ラベリング&モバイルソリューションズ事業 事業企画部
田淵 麻美

入社5年目の2018年1月から3カ月間、イギリスにある欧州統括会社にトレーニーとして勤務しました。販売の現場という、よりお客様に近いところで日々働くメンバーとともに、新サービスの立ち上げを推進するという貴重な経験ができました。立場が違えば見えているものや考え方が違うということを実感し、その中でいかに同じ目標に向かって関係者を巻き込めるかを考え、試行錯誤を重ねながらさまざまな学び・気づきが得られました。この経験を生かして、今後はよりチャレンジングな仕事に取り組んでいきたいです。

▶女性活躍推進に関する宣言 http://positiveaction.mhlw.go.jp/declaration/add/search_detail/?id=1346

PDF 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画(ブラザー工業株式会社行動計画) [PDF/308KB]
http://download.brother.com/pub/jp/csr/pdf/diversified_plan.pdf

PDF 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画(ブラザー工業株式会社行動計画) [PDF/281KB]
http://download.brother.com/pub/jp/csr/pdf/diversified_plan2.pdf

従業員とともに 多様な働き方の支援

女性活躍推進のための活動

主な施策

<p>2015年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅勤務制度の導入 ・ 役員と、女性の活躍について語る会 ・ 管理職対象の、女性部下育成のための講演会 ・ 女性従業員対象の、キャリア支援講演会 ・ 女性技能職対象の、キャリアを考える他社交流会 	 <p>キャリア支援後援会</p>
<p>2016年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内の先輩従業員を囲んだテーマ別座談会「キャリアコミュニティ」 ・ 女性のためのがんセミナー ・ 社長によるブラザーの女性活躍に関する社外講演会 ・ 女性キャリアを考える他社交流会 	 <p>社長(当時)による社外講演会</p>
<p>2017年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門で女性活躍に向けた方針作成 ・ 社内の先輩従業員を囲んだテーマ別座談会「キャリアコミュニティ」 ・ 女性従業員対象の、キャリア支援研修および外部の専門家によるキャリア相談 	 <p>キャリアコミュニティ</p>

従業員とともに 多様な働き方の支援

仕事と生活の両立支援

制度の拡充と取得しやすい雰囲気づくり

ブラザー工業は、従業員が安心して生き生きと働き続けられるために、フレックスタイム勤務や、育児や介護のための休職、短時間勤務、看護休暇などワークライフバランスを支える各種制度を整備しています。2015年度には、育児や介護などを行う従業員を対象とした在宅勤務制度を導入し、柔軟な働き方の選択肢を増やしました。同時に、従業員の意見を取り入れ、制度が使いやすくなる工夫や理解を進める雰囲気づくりにも注力しています。

2011年度からは、いずれ訪れる大介護時代に備えた仕事と介護の両立を考えるセミナーを実施しました。特に管理職には参加を義務づけ、部下の介護リスクに備えるための情報提供を行っています。2016年度には、がんに関する正しい知識を持ち、元気に長く働き続けるための「女性のためのがんセミナー」を開催したほか、社内の先輩従業員を囲んだテーマ別座談会「キャリアコミュニティ」を開始しました。いずれも、従業員が参加しやすい勤務時間内に開催しています。



女性のためのがんセミナー

ブラザー工業株式会社の各制度の利用者数*1

	2015年度	2016年度	2017年度
育児休職*2	57名 (12)	60名 (17)	61名 (19)
介護休職*2	0名 (0)	5名 (3)	3名 (1)
育児のための短時間勤務	155名 (11)	153名 (5)	156名 (6)
介護のための短時間勤務	1名 (1)	2名 (1)	2名 (1)
看護休暇	29名 (7)	31名 (8)	31名 (9)
在宅勤務制度	29名 (6)	41名 (8)	57名 (6)

*1 : ()内の数字は男性の利用者数 *2 : 各年度での取得開始者数

従業員とともに 多様な働き方の支援

仕事と生活の両立支援

制度の拡充と取得しやすい雰囲気づくり



在宅勤務制度利用者の声
~Web会議システム「OmniJoin（オムニジョイン）」を常時接続し、職場のメンバーとコミュニケーションを取りながら業務を遂行~

ブラザー工業株式会社 マーケティング企画センター 総合デザイン部
高村 遵

週に2日の在宅勤務をしています。職場とWeb会議システム「OmniJoin（オムニジョイン）」を常時接続しており、職場のメンバーとコミュニケーションを取りながら業務を行っています。チームの会議には自宅から参加しており、出社している状態と変わりありません。休憩時間に家事をしたり、子どもの急な体調不良のときに勤務を終了して看病をしたりするなど、在宅勤務制度のおかげで、ワークライフバランスを実現できていると感じています。

従業員とともに 人材育成

グローバルな人材育成に向けて

従業員の多様性と個性を尊重し、優れた価値を提供できるグローバルな人材を育成

ブラザーグループは、「ブラザーグループ グローバル憲章」の「従業員」の項目に示しているように

- (1) 従業員の持つ多様性の尊重
- (2) 従業員による、さまざまな能力の発揮
- (3) チャレンジングな仕事の提供

を重視しています。そして各国、各地域、各事業に則した人材育成と関連制度の充実を図ることが、従業員の長期にわたる才能・スキルの発揮に結びつくと考え、育成環境の整備とさまざまな制度の構築を進めています。

取り組みの一環としてこれまでに、海外拠点のマネジメント層を育成する研修の実施や、日本の若手従業員を対象とするトレーニー(訓練生)の海外派遣など、早期に複数の国で経験を積む制度を実施しています。

ブラザーグループは、これからも各国・各地域の人材育成の情報をグループ全体で共有し、グローバルに計画的・長期的な人材育成を進めていきます。

グローバルな課題に対応できる人材を育成

さまざまな経験によって、広い視野と高い専門性を得る

ブラザーグループは、広い視野と高い専門性を持ち、グローバルな課題に対応できる人材を育成するため、ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)とグループ会社の間で人材を派遣する研修、「トレーニー制度」を2008年度から実施しています。

この研修は、人材育成計画に基づいて選出された若手の従業員が対象で、派遣期間は3か月から2年とし、派遣元と派遣先で事前に立案した研修計画にそったOJT(On the Job Training)を行います。トレーニー制度の利用は自身の専門業務に関係する研修が中心でしたが、2015年度からは、開発者が営業担当者と一緒にお客様を訪問し、現場のニーズや使用状況をお客様から直接聞くなど、専門性とは異なるものの、経験を通じて新たな知見を得る研修にも適応しています。



顕微鏡で調整

2017年度は、ブラザー工業からイギリスやインドなどのグループ会社に31名、フィリピンや中国にあるグループ会社からブラザー工業に13名の従業員を派遣しています。ブラザー工業入社2年目のある従業員は、技術やスキルの習得を目指し、台湾の生産拠点である台弟工業股份有限公司に派遣されました。実際に組立作業を行い、課題が見つかった作業技術を、熟練作業員へのヒアリングによって向上させ、最終的に職業用刺しゅうマシン1台すべてを組み立てることで、学びの成果を実感しました。

2017年11月に行った、これまでに日本から派遣された従業員を対象にしたアンケートでは、「販売現場を経験したことで、これまで以上にお客様視点で開発が行えるようになった」、「これまで知らなかった知識や視点を持てたことで、より全体最適な考え方ができるようになった」といった声がありました。

ブラザーグループは、これからも優れた価値を提供できるグローバルな人材の育成に取り組んでいきます。

従業員とともに 人材育成

グローバルな課題に対応できる人材を育成

さまざまな経験によって、広い視野と高い専門性を得る



トレーニー研修参加者の声
~積極的な交流によって多くの学びを得る~

ブラザー工業株式会社 パーソナル・アンド・ホーム事業 生産革新部
金田 拓郎

私は入社2年目の2017年9月から3か月間、日本では製造現場が少なく直接経験できない"製造の基本"を3現(現場・現物・現実)で学ぶため、台弟工業股份有限公司でミシン組立ラインでの作業を中心に研修を行いました。

その中で、現場の声、モノ創りへの意識、日々の製造活動やとるべき行動を可能な限り吸収できるよう、中国語や現地スタッフから学んだ台湾語を積極的に用いての交流を、常に心掛けました。

その結果、日本での担当業務である、海外拠点とのさまざまな連携活動の推進に対する課題や改善点の抽出、および多くの気づきを得ることができ、非常によい経験となりました。

従業員とともに 人材育成

アジア・パシフィック地域の販売会社が一堂に会し、人材育成会議を開催

「人財の変革」実現に向けた取り組みの共有や、今後の育成推進施策について話し合う

アジア・パシフィック(以下、AP)地域の販売会社を統括するブラザーインターナショナル株式会社(以下、BIC(J))が主体となり、AP地域各拠点が取り組んでいる人材育成について、国や地域を超えて共有し学び合うため、人材育成会議を年1回、開催しています。

2017年9月に名古屋で開催した会議では、9拠点(シンガポール、フィリピン、タイ、香港、アラブ首長国連邦、トルコ、台湾、インド、日本)から参加した15名が、ブラザーグループの中期戦略「CSB2018」で掲げた「人財の変革」の実現に向けた取り組みの共有や、今後の育成推進施策について話し合いました。

BIC(J)からは、従業員一人ひとりのキャリア開発計画の策定・面談・育成進捗共有の仕組みと、8か月にわたり週1回、上司と部下の1対1で行う対話で、部下の行動や思考を振り返ることで気づきを促し、改善につなげる取り組みが紹介されました。ブラザーインターナショナル(シンガポール)Pte.Ltd.からは、個々の思考や行動パターンなどの特性を理解し、その特性を生かした連携を促進して、組織力を高めていく手法が紹介されました。また、今後さらに人材育成を推進していくための施策として、国や地域を超えた人材の交流など、さまざまなアイデアが出されました。



今後の人材育成について話し合う参加者

参加者からは、「従業員に成長の機会を提供する1対1の対話が興味深かった。自分たちの拠点でも展開していきたい」「国や地域を超えた人材育成の仕組みについて、さらに議論したい」といった声がありました。

ブラザーグループは、これからも従業員の長期にわたる才能やスキルの発揮につながる人材育成に取り組んでいきます。

従業員とともに 安全衛生・防災

安全衛生・防災の仕組みづくり

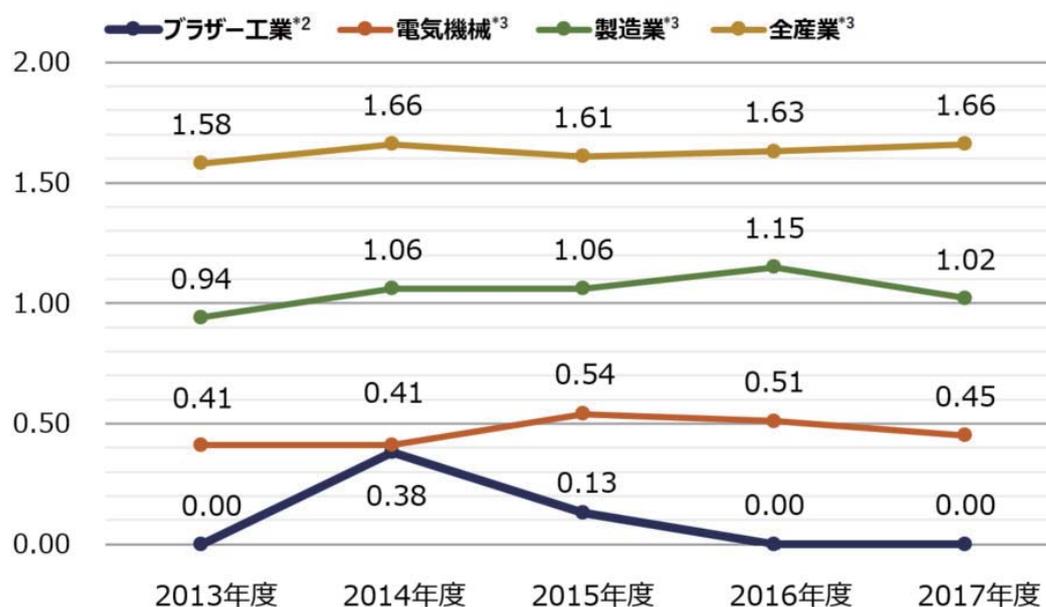
「安全防災基本方針」を定め活動を推進

ブラザーグループは「安全防災基本方針」を、「『安全第一』は、すべての活動の基本である。すべての従業員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めるとともに、安全文化を定着させる。」と定め、ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)の各国内拠点トップが委員となる中央安全衛生防災委員会を中心に、防災や従業員の疾病防止、快適職場づくりに継続して取り組んでいます。

国内にある全拠点では、職場の安全衛生や防災の状況を確認するため、定期的に中央安全衛生防災委員長によるパトロールと、各拠点の安全防災委員によるパトロールを行っています。

ブラザー工業の主な国内拠点では、2016年度、2017年度ともに休業災害は発生していません。

度数率(休業)*1



*1 : 労働災害による死傷者数/労働時間数×1,000,000

*2 : ブラザー工業の主な国内拠点

*3 : 厚生労働省「労働災害動向調査」による

従業員とともに 安全衛生・防災

安全衛生・防災の仕組みづくり

「安全防災基本方針」を定め活動を推進

さらに、安全衛生面では毎年、拠点ごとに安全衛生委員会で策定した計画書に基づき、危険予知などの安全先取り活動や安全衛生教育などの活動を行っています。教育は、ブラザー工業の全従業員を対象にe-ラーニングで実施しているほか、化学物質などを扱う特殊作業に従事する従業員に対しては、特殊作業に合わせた内容の教育も実施しています。

防災面では、万が一、災害が発生した場合に被害を最小限にとどめるための防災組織の整備や避難訓練、初期消火訓練、AED(自動体外式除細動器)を使用した救命講習、法令に基づく消防設備点検を各拠点で実施しています。

2007年に、地域や行政機関との間で大規模災害発生時における支援協力に関する覚書の締結を行い、2014年からは、覚書を締結した近隣の保育園と合同避難訓練を実施しています。

2018年3月には、ブラザー工業の本社で、災害時に設置する災害対策本部の設置訓練を、社長が本部長、部門長やブラザー工業人事部安全防災グループが本部要員となる構成で行いました。南海トラフ地震発生直後を想定し、従業員の負傷者数や建物の損壊状態などの情報収集から、重要課題に対して本部長の指示が発信されるまでの演習を行いました。



訓練で設置した災害対策本部

従業員とともに 安全衛生・防災

グローバルに安全衛生・防災活動を推進

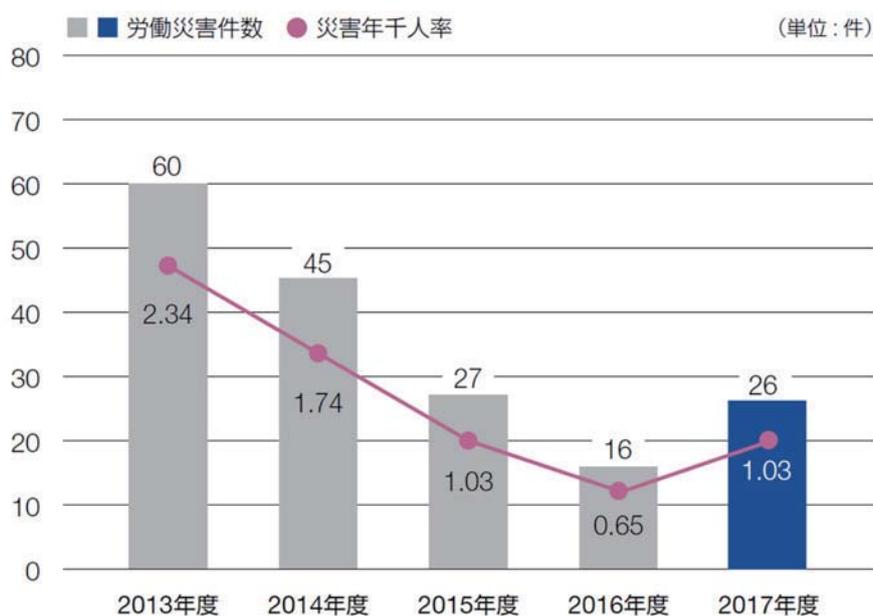
情報の共有とリスクの見える化

主要な海外生産拠点には、中央安全防災委員会の事務局であるブラザー工業人事部安全防災グループが、定期的にパトロールや監査を行っており、各拠点の安全衛生・防災レベルの向上や現地スタッフの育成につなげています。

国内・海外の主要生産拠点で発生した災害は、社内イントラサイトで共有しており、全ての拠点で災害の情報や対策内容を確認することができます。各拠点では、同種同類の災害が発生しないように、これら対策を水平展開しています。

2017年度は、生産現場に設置している設備などに潜在する危なさを度合いが一目でわかるように、リスクアセスメントで安全対策を行っても一定レベル以上の危なさが残ると判断されている設備など対して、リスクの度合いを表示する「リスクの見える化」を行いました。

海外主要生産拠点での労働災害件数(休業・不働災害を含めたもの)



労働災害の年千人率：(災害件数/従業員数)×1000

また、2017年12月に、火災における従業員および職場の安全確保を目的とした「ブラザーグループ防火体制・管理規程」を制定しました。

この規程は、(1) 火災を未然に防ぐ「防火管理」、(2) 火災発生時に被害を最小限に止める「消火管理」、(3) 従業員の安全を確保する「人身安全管理」の計3要素から構成されています。

今後、この規程を主要な海外工場へ順次展開していきます。

ブラザーグループは、これからも従業員がより一層、安全で安心して働くことができる職場となるよう災害件数0件を目指し、継続的かつ積極的に安全衛生・防災活動を推進していきます。

従業員とともに 健康経営の推進

「ブラザーグループ健康経営理念」を制定し、従業員の健康管理を推進

健康経営推進体制を構築

ブラザーグループは、モノ創りを通して優れた価値を創造し、世界中のお客様に製品やサービスを提供するため、全ての従業員がグローバルに日々活躍しています。

その活動の基盤となる「基本方針」と「行動規範」が定められた「ブラザーグループ グローバル憲章」に示されているように、従業員が長期にわたり才能とスキルを発揮するためには、一人ひとりの健康管理が重要であると考えています。

2016年9月、ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)はブラザーグループ健康経営理念(以下、健康経営理念)を制定しました。

今後も、最高健康責任者(CHO: Chief Health Officer)のもと、健康経営理念に基づき、さまざまな活動に戦略的に取り組んでいきます。

ブラザーグループ健康経営理念

ブラザーグループは、従業員一人ひとりの心身の健康こそ大切な「財産」ととらえ、『明るく・楽しく・元気に』、生き活きとさまざまな能力を発揮できることが、グループの成長につながると考えています。

従業員一人ひとりが健康であることは、ブラザーグループの継続した発展の礎であるとともに、健康寿命の延伸など社会の要請に応えるものです。

健康経営の実現のため、会社・労働組合・健康保険組合が一体となり、従業員の健康の保持・増進に戦略的に取り組みます。

ブラザー工業株式会社
代表取締役社長
最高健康責任者
佐々木 一郎

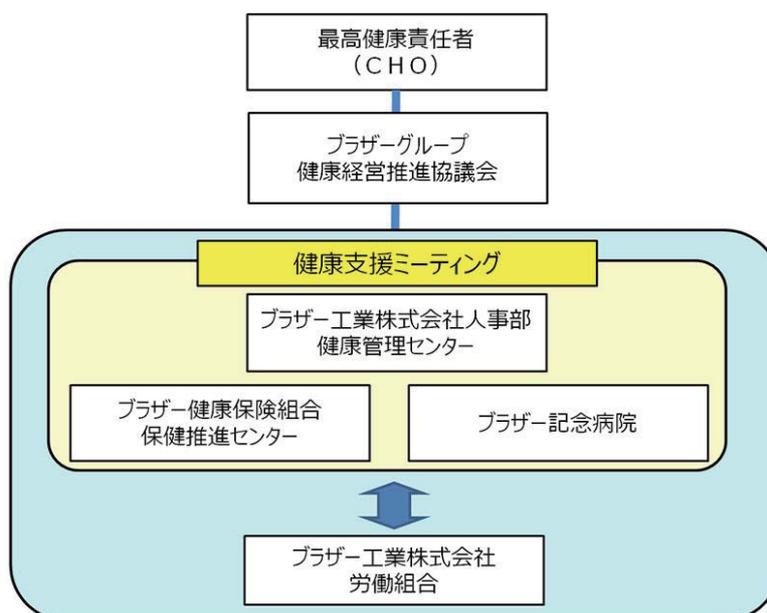
従業員とともに 健康経営の推進

「ブラザーグループ健康経営理念」を制定し、従業員の健康管理を推進

健康経営推進体制

健康経営推進体制のもと、PDCAサイクルを回して、効果的・効率的な従業員の健康の保持・増進活動を展開しています。ブラザー工業および国内のグループ会社から活動を推進しており、順次海外のグループ会社に展開する予定です。

ブラザーグループ健康経営推進体制図



ブラザーグループ健康経営推進協議会

ブラザー工業および国内のグループ会社の安全衛生担当責任者が年1回集まり、従業員の健康に関する課題を抽出し、次年度の活動方針を決定します。

2016年度は、生活習慣病の予防、メンタルヘルス対策、禁煙支援、ヘルスリテラシーの向上など、それぞれの課題に対して目標を決めました。

2017年度は、目標を達成するために実施した活動の進捗報告や、健康経営優良法人に選定されたグループ会社による活動事例の発表を行いました。また、従業員の健康の保持・増進活動を積極的に行い、効果が高く表れた会社を表彰する「CHO賞」を新設したことを報告しました。

従業員とともに 健康経営の推進

「ブラザーグループ健康経営理念」を制定し、従業員の健康管理を推進

健康支援ミーティング

ブラザーグループ健康経営推進協議会で決定した方針に従い、数値目標達成のための具体的な活動内容を決め、実施方法の検討とその結果の評価を行います。ブラザー工業人事部健康管理センターとブラザー健康保険組合の保健推進センターおよびブラザー記念病院が連携し、労働組合と協働したイベントの開催など健康の保持・増進のための活動を推進しています。

従業員の健康管理・状況 (2017年度 ブラザー工業株式会社)

従業員の健康管理		
定期健診	受診率	100%*1
	35歳以上の従業員を対象とする総合健診の受診率	96.0%*2
	有所見率	55.5%
	2次検査受診率	76.1%
特定健診*3	受診率	97.1%*4
	メタボリックシンドローム率	11.0%
ストレスチェック	受診率	87.9%*1
ブラザー健康生活月間	参加率	29.5%*1
	満足率	94.0%

*1：ブラザー工業従業員に対する割合

*2：35歳以上のブラザー工業従業員に対する割合

*3：厚生労働省が定める健診

*4：特定健診の対象従業員に対する割合

従業員とともに 健康経営の推進

「ブラザーグループ健康経営理念」を制定し、従業員の健康管理を推進

従業員の健康管理・状況 (2017年度 ブラザー工業株式会社)

従業員の健康状況		
年間総実労働時間		1977時間
年間所定外労働時間		217時間
平均勤続年数		13.4年
離職者数		41名
有給休暇取得率・日数		82.5%・16.5日
長時間労働者数	所定外労働時間が月に100時間を越えた人数	2名
生活習慣病	糖尿病	5.4%*1
	高血圧	8.9%*1
	脂質異常症	12.6%*1
喫煙率		16.3%*1
運動習慣者比率	週1回以上、30分程度の運動習慣のある人	42.1%*1
ストレスチェック	高ストレス率	10.9%
従業員1人当たりの医療費総額の平均		124,583円
従業員満足度	従業員意識調査「私は、ブラザーの一員として、総合的に満足している」の回答(5段階評価)	3.77

*1：ブラザー工業従業員に対する割合

従業員とともに 健康経営の推進

心身の健康の保持・増進

グループ全体の健康の保持・増進を目指して

ブラザー工業は、健康管理センターを設置し、グループ従業員の健康管理やメンタルヘルス対策、健康づくりに力を入れています。ブラザーグループの各国、各地域の拠点では、産業医を配置もしくは医療機関と提携し、従業員の心身の健康の保持・増進に取り組んでいます。

健康管理センターの産業医と保健師は2017年度、生産拠点の兄弟機械(西安)有限公司と研究開発拠点の濱江兄弟信息技术(杭州)有限公司、販売拠点のブラザーインターナショナル(インド)Private Ltd.を訪問し、出向者やその家族に対する健康面談やメンタルヘルス講習を実施するとともに、生活環境のヒアリングや近郊の医療施設の視察による医療情報の収集、提供を行いました。また、出向者が医療機関を受診する際の予約代行や通訳、重症疾患発症時のサポートをしてくれる医療サポートサービス会社と情報交換を行いました。

心の健康づくり ～予防・早期発見・発症者フォローまで～

ブラザー工業は、健康管理センターが設立された翌年の2007年から従業員に対する継続的なメンタルヘルス教育を行っています。

自らストレスに気づき適切な対処ができること(一次予防)、上司が部下の不調を早期に発見し対応ができること(二次予防)を目指しています。また、病気を発症した後も自分らしく働き続けることができるよう、復職支援(三次予防)にも各職場と協力し取り組んでいます。

一次予防につながるセルフケア講習は、節目の年齢のタイミングで全従業員が受講しています。講習では、実際に社内で起きた事例を題材に体調管理の方法やストレスとの付き合い方について自分自身に置き換え考えています。



セルフケア講習

労働安全衛生法の改正に伴い2014年度から「ストレスチェック」を導入しています。2017年度からは「ストレスチェック」の集団分析を行い、部門単位での健康リスク評価を行いました。リスク評価の結果は産業医・保健師から全部門の責任者にフィードバックされ、各部門は、自部門のストレス状況の課題を認識し、部門長を中心に職場改善のための施策を検討しました。

従業員とともに 健康経営の推進

心身の健康の保持・増進

従業員の健康づくりをサポート

健康管理センターは、毎年10月～11月を「ブラザー健康生活月間」とし、健康保険組合・労働組合・人事部安全防災グループと協力しさまざまな取り組みを行っています。

2017年度は、従業員の運動不足解消のきっかけ作りを目的に、「必ずみつける！ 毎日できる！ ブラザー流 エクササイズ」と題した健康教室を、各職場に保健師が出向いて開催しました。

このように、状況に合わせた内容で健康教室を行い、メタボリックシンドロームや疾病の予防、健康の保持・増進を目指しています。

また、従業員の受動喫煙を防止するために敷地内全面禁煙の実現を目指して、2016年度からブラザー工業すべての建物内を禁煙にし、2018年度からは就業時間の禁煙を徹底しています。

今後も、従業員の受動喫煙防止や喫煙者が禁煙するためのサポートを強化していきます。

ブラザーグループは、これからも従業員の心身の健康の保持・増進のための取り組みを推進していきます。

今年も職場に健康教室をデリバリー

2017年度
健康生活月間

運動教室

**必ずみつける！毎日できる！
ブラザー流 エクササイズ**

- そもそも運動って何？
なぜ運動しなければいけないの？
- 運動能力簡単チェックあり
- +10分でできる
ブラザーグループ従業員ならではの
簡単運動方法伝授
- JOY BEATの進化
Co-Connect(コ
コネクト)を使用し
て運動体験
- 運動に関する最新
情報をクイズで
習得できる

体験型講習★
毎日簡単にできる！必ず習慣になる！
教室中に運動体験をしながら、あなたにぴったりの
運動方法を習得できる教室です



健康教室の案内



屋外の喫煙所

ビジネスパートナーとともに CSR調達の推進

お取引先とともにCSR調達を推進

「調達方針」と「CSR調達基準」を公開

ブラザーグループは、部品・材料を調達するお取引先の皆さまにCSR調達の考え方を共有するため、「調達方針」と「CSR調達基準」を公開しています。「調達方針」と「CSR調達基準」は、環境に配慮した部品・材料を優先的に購入する「グリーン調達」に加えて、人権・労働、安全衛生、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、社会貢献などの分野にも広がっています。

ブラザーグループは、お取引先の皆さまとともにCSR活動を推進していきます。

調達方針

- すべてのお取引先に対して、公平・公正な取引を行います。
- 活動する国や地域における関連法規、規則を順守し、お取引先と相互信頼関係を築いて、成長し合うことを目指します。
- 地球環境に配慮したグリーン調達を推進し、製品のライフサイクルを通じた環境への負荷を低減します。
- あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた品質と適正なコストの追求に努めます。
- 紛争鉱物*問題を重要な課題としてとらえ、責任ある鉱物調達の実践に取り組みます。

*：紛争地域で不当な方法で採掘された鉱物。その取引は武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害、労働問題、環境破壊等への関与が指摘されています。

CSR調達基準 (お取引先へのお願い)

- すべての人の基本的人権を尊重し、不当な労働の強制、児童就労などは行わないでください。
- 従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでください。
- 地球環境への配慮に前向きに取り組んでください。
関連法規、規則を順守し、公平・公正で最高度の倫理感を持った取引を行ってください。
- お客様に安全かつ優れた品質の製品をお届けするための仕組みづくりに、取り組んでください。
- 情報管理体制を構築し、個人情報、機密情報を、適切に管理してください。
- 地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力してください。
- 紛争地域において不当な方法で採掘された鉱物を、原材料として使用しないよう努力してください。

▶ 英語版 調達の方針・基準 <https://global.brother/en/csr/stakeholder/partner/csr#c02>

PDF 中国語版 調達の方針・基準 [PDF/111KB]
<http://download.brother.com/pub/com/en/csr/partner/policy-cn.pdf>

ビジネスパートナーとともに CSR調達の推進

お取引先とともにCSRのレベルアップを目指す

CSRアンケートをもとに、改善要請や現場確認を実施

部品・材料を供給いただいているお取引先のCSR活動水準向上のために、2012年度から3年ごとにCSRアンケートを行っています。

2回目となる2015年度のアンケートは、「労働時間」や「機械装置の安全対策」、「製造工程で用いる化学物質の管理状況」など、約80項目の5段階評価に加え、「省エネルギー活動の目標達成率」や、「不正行為の通報件数」、児童労働禁止の関連設問として「最も若い従業員の年齢」など定量的な情報も記入いただく内容で、500社以上のお取引先から具体的な活動情報を提供いただきました。

2016年度は、活動情報を提供いただいたうち約500社のお取引先に、アンケートを集計・分析して分かった地域ごとの水準や傾向、お取引先の活動レベルなどの情報を提供しました。また、アンケートに未実施と回答した項目があるお取引先には、改善計画を策定いただきました。

2017年度は、改善計画の進捗状況を確認するため、お取引先を訪問して生産現場の確認を行いました。温室効果ガス削減活動を行っていないと回答したお取引先では、計画されていた冷暖房温度の適正化やLED照明の使用、省エネ設備の導入を確認しました。現場確認によって、電力使用量の目標管理に課題があることが分かったため、今後の参考となるよう、ブラザーグループで行っている目標管理の方法を紹介しました。

2017年3月には、2015年に英国で制定・施行された現代奴隷法を受け、奴隷(強制)労働に関するアンケート調査を行い、お取引先の状況を把握しました。

ブラザーグループは、これからも「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」および「CSR調達基準」の趣旨に基づき、お取引先の労働状況や環境配慮などのモニタリングをアンケートや現場確認で継続的に実施・強化し、お取引先のCSR活動を推進していきます。



訪問したお取引先の生産現場

ビジネスパートナーとともに CSR調達の推進

お取引先の優秀なCSRの取り組みを表彰

160社以上のお取引先の中から9社を表彰

マシナリー事業の生産拠点である刈谷工場、兄弟機械(西安)有限公司、ブラザーマシナリー(ベトナム)Co.,Ltd.の3工場は、お取引先におけるCSR活動のさらなる推進に向け、2015年から優秀なCSRの取り組み事例を表彰する制度を始めました。

2017年度は、アンケートで全てのお取引先の取り組みを確認し、従業員数で分けた3つのカテゴリー毎に優秀なお取引先の表彰を行いました。

2017年10月から11月にかけて行ったアンケート調査では、160社以上からの回答が集まりました。アンケートはYES・NOで回答する質問に加え、活動回数や具体的な活動内容を記入する形式で実施され、集まった回答を点数化し、表彰するお取引先を決定しました。また、質問ごとの平均値などを表やグラフにまとめ、アンケートに回答いただいた全てのお取引先にフィードバックすることで、今後の取り組みに生かしていただけるようにしました。

CSR表彰制度を通して、労働環境改善、廃棄物の削減、ISO 14001の取得やそれに基づいた取り組みなど多くの情報を各社から提供いただき、お取引先のCSRに対する姿勢や取り組み内容を知ることができました。この表彰制度を通じ、お取引先のCSR活動に対する意識の向上と活動の拡大・拡充を推進していきます。

ブラザーグループは、これからもお客様に優れた価値を迅速に提供するため、ビジネスパートナーと相互信頼関係を築いて成長し合うことを目指します。



中国で、受賞企業を集めて行った表彰式



日本で、受賞企業を訪問して行った表彰式
(桑名エンジニアリングプラスチック株式会社)

2017年度 表彰企業

従業員数	企業名
150名以上の部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒田化学株式会社 ・ 東莞信濃馬達有限公司 ・ サカタインクス株式会社
149名から50名の部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社鈴民精密工業所 ・ 桑名エンジニアリングプラスチック株式会社 ・ THIEN QUANG GROUP JOIN STOCK COMPANY
49名以下の部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長沙東方工業縫紉机零件有限公司 ・ 西安市臨潼区立易達机电有限公司 ・ 上海山欣実業有限公司

ビジネスパートナーとともに お取引先の声

ブラザーグループとの相互成長に向けて

CSR調達は世界的な潮流であり、その定着・浸透は、企業を取り巻く社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会拡大にもつながります。この主旨をご理解いただき、ブラザーグループとの信頼関係を基盤に相互成長を目指すお取引先から、多くの声が寄せられています。

お取引先から



自社だけでなく、主要サプライヤー各社のCSR遵守状況も確認

東莞市秀玻光電科技有限公司
田猗銜 様

これまでのCSR活動

1. 2013年から、化学品の取り扱いや消防などの訓練活動を全従業員が参加で年1回以上実施している。
2. 2013年から、従業員に6月から9月の期間に対して高温手当を支給するとともに、毎週水曜日に飲料も提供している。
3. 「安全第一 予防を主とする」という安全生産方針に基づき、従業員に防護用具を支給している。
4. 毎年、従業員に健康診断を実施している。
5. モチベーションをより高めるため、皆勤手当や年末手当制度を設けている。
6. 従業員に奉仕精神を持ってもらうため、会社に「愛の寄付箱」を設置し、生活に困っている従業員のための募金活動を実施している。
7. 「ビジネス・ソーシャル・コンプライアンス・イニシアティブ行動規則」を順守している。また、サプライヤーにも順守を推進している。
8. 従業員に省エネ・CO2排出量の削減を呼びかけるとともに、節水や節電、紙の使用量を削減する目標を策定している。また、廃棄物の分別や化学有害物質についての基礎知識、環境保全などに関する教育を実施している。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

1. CSRの推進状況についてチェックリストを作成し、主要サプライヤー各社から情報を収集することで、主要サプライヤー各社のCSR推進状況を確認する。
2. 社会貢献活動を推進する。
3. すでに実施しているCSR活動を改善し続けていく。

ビジネスパートナーとともに お取引先の声

お取引先から



8つの重要課題を挙げ活動を推進

Shin-Etsu Polymer Vietnam Co., Ltd.

前山 尚志 様

これまでのCSR活動

信越ポリマーグループは、安全第一、公正な企業活動を最優先する経営に徹し、社会と共に成長し続ける企業を目指しています。地球環境保全や環境経営に関する考え方、取り組みとCSR活動については、2001年から発行している「環境・社会報告書」で報告しています。

これまで実施してきたCSR経営の強化を目的に、2017年11月に「CSR推進委員会」を発足させました。委員会では、「CSRの基本方針」の策定、および「重要課題の洗い出し」を実施しました。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

「企業理念：遵法に徹して公正な企業活動」及び「CSRの基本方針」を基本として、8つの重要課題を挙げ、今期は、特に、「CSR調達の推進、原料調達の多様化」、「人間尊重、人材育成、多様性の推進」を優先して取り組んでいきます。

<重要課題>

1. 働く人の安全の確保と健康の促進
2. 省エネルギー、省資源、環境負荷の低減
3. 製品の品質の向上、製品の安全性管理
4. CSR調達の推進、原料調達の多様化
5. 人間尊重、人材育成、多様性の推進
6. 知的財産の尊重と保護
7. 社会貢献活動
8. 適時、的確な情報開示、ステークホルダーとの対話

ビジネスパートナーとともに お取引先の声

お取引先から



CSR活動を改善し続ける

珠海吉田精密塑料模具有限公司
黄教民 様

これまでのCSR活動

1. 2013年から環境と資源の持続的発展に注力している。例えば、環境保全や材料など資源の無駄遣いの防止、廃棄物による汚染の削減、資源のリサイクルなど。
2. 2014年から、会社情報の公開とセキュリティ強化を積極的に推進するとともに、法律と法規制を尊重している。
 1. 製品・サービス・管理体制の認証状況および商標の認定状況を公開した。
 2. 従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場作りを目指し、従業員の帰属意識を高めた。
 3. 消防に関する訓練および勉強会を定期的開催し、従業員の安全意識を高めた。
3. 従業員に会社の温かみと一体感を感じてもらうため、誕生日パーティーを開催した。
4. 従業員が前向きに働き会社とともに成長していけるよう、従業員の福利厚生を改善した。
5. 毎年の社員旅行や年休制度の設定をするとともに、地域政府が主催するボランティア活動への参加を推進した。
6. 貧困地域住民の就職を支援するほか、従業員に対してスキルを向上させるためのトレーニングの実施や社外で行われる勉強会に参加する機会を設けた。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

1. 環境保全：社内で環境保全に関する勉強会を開催したり、地域政府が主催する環境保全活動に参加したりする。
2. 従業員一人一人に命と健康の大切さを認識してもらうため、安全に関する勉強会とトレーニングを定期的開催する。
3. 豊かな企業文化を構築し、従業員がより積極的にCSR活動に参加するよう推進する。
4. 従業員一人一人が人生の意味と価値を認識し、会社とともに素晴らしい未来を目指せるように、CSR活動を継続的に改善する。

ビジネスパートナーとともに お取引先の声

お取引先から



経営層が深く関わりCSR活動を実施

Juntec Corporation
MARICEL A. BENITEZ 様

これまでのCSR活動

経営層がCSR活動に深く関わり、コンプライアンス、従業員の健康と安全、環境保護、および社会貢献を実施しています。私たちの年間の活動は以下の通りです。

1. Fun Run for a Cause(チャリティのマラソンイベント)への参加
2. フィリピン大学ロスバノス校の生態系学部と共同で植林を実施
3. 近隣地域で実施される、医療費の支払いが難しい人を対象とした無料医療活動への参加
4. 学校の備品を揃え、学校の清掃を行うボランティア活動への参加
5. 従業員の福利のため、ミサを毎月実施
6. 紙の再利用、削減活動を実施
7. 従業員にクリスマスプレゼントを贈り、従業員のボランティア精神を高める

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

1. 廃棄物分別の仕組みを改善
2. 従業員と地域社会に対する危険管理と、災害管理についての教育を実施
3. 電力や水など、資源の消費を削減する活動の推進
4. さまざまなCSR活動への従業員参加の促進

株主とともに IRコミュニケーション

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的な情報開示

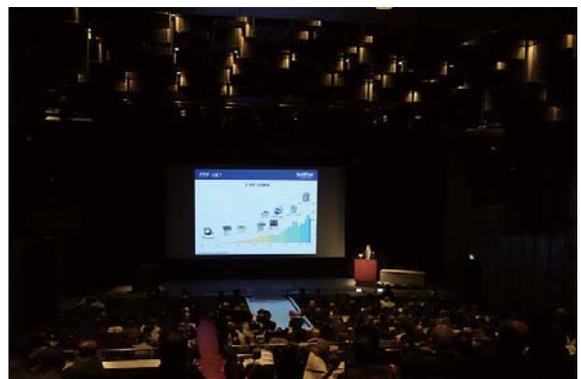
ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)は、株主・投資家の皆さまへの情報提供の機会を増やし最新の情報を分かりやすくお伝えすることにより、株主・投資家の皆さまとの長期的な信頼関係の構築に努めています。

株主の皆さまに対しては、年2回株主通信(通期号は招集ご通知と合冊化)をお届けし、ブラザーグループの業績や最新の話題をお伝えしています。

機関投資家・証券アナリストの皆さまに対しては、社長自らが説明を行う決算説明会を年4回開催しているほか、積極的に個別訪問や取材対応を行っています。個人投資家の皆さまに対しては、証券会社支店での会社説明会を中心に事業内容や経営戦略の説明などを行っています。2017年度は東京、横浜、名古屋を会場として計3回の会社説明会を開催し、延べ483名の個人投資家の皆さまとコミュニケーションを図ることができました。

また、ブラザー工業は、2018年6月26日(火)に、「第126回定時株主総会」を名古屋東急ホテル(愛知県名古屋市)で開催し、276名の株主の皆さまにご出席いただきました。本総会では、2017年度のブラザーグループの事業状況の報告や2018年度の業績見通しに関する説明を行い、議案審議では、多くの株主の皆さまからご賛同を得て、すべての議案について原案どおり承認可決されました。株主総会終了後には、株主の皆さまが当社役員と直接対話する「株主懇談会」も開催しました。

ブラザー工業は、これからもより多くの株主・投資家の皆さまとコミュニケーションをとる機会を作り、積極的な情報開示を行っていきます。



東京での会社説明会



第126回定時株主総会

株主とともに IRコミュニケーション

会社や製品の魅力を伝えるために

ブラザーで初めての個人株主の皆さま向けイベントを開催

株主アンケートで寄せられた「ブラザーについてもっと知りたい、もっとコミュニケーションを取りたい」という多数の声を受け、2017年8月と9月に、ブラザー工業として初めて個人株主の皆さま向けのイベントを開催しました。

8月は、ブラザー工業が本社を置く愛知県名古屋市にある名古屋市科学館で、世界各地のさまざまな環境問題に対するブラザーの取り組みの紹介や、絶滅危惧種についての講演、プラネタリウムドーム「Brother Earth(ブラザーアース)」でのプラネタリウム鑑賞会を開催し、一般の方を含め235名の参加がありました。

9月は、ブラザーミュージアムの見学会を開催しました。個人株主とその同伴者の合計29名の参加があり、109年のブラザーの歴史や事業内容、業績の推移などを紹介しました。また、ブラザー製品を体験する時間が設けられ、紙や布を切るカッティングマシン「スキャンカット」を使って色画用紙を雪の結晶にカットしたり、オリジナルのラベルを作成できるラベルライター「ピータッチ」を使って自分の名前のラベルを作成したりするなど、製品の魅力を体感いただきました。



名古屋市科学館で開催した講演会(8月)



ブラザーミュージアムでブラザーの歴史を紹介(9月)

イベントに参加いただいた方々からは、「今までより、親近感を持つことができました」、「ミシン中心の事業展開と思っていた。海外への進出、自然保護に力を入れていることがわかった」、「株主総会などでも素晴らしい企業だと思っていたが、今回の見学でご説明を聞かせていただき、ますます意を強くした」といった感想が寄せられました。

ブラザー工業は、これからも会社や製品の魅力を伝えるため、株主・投資家の皆さまと直接コミュニケーションができる機会を大切に、さらなる「ブラザーのファン作り」のための活動を積極的に続けていきます。

株主とともに 外部からの評価

モーニングスター社会的責任投資株価指数

10年連続で「モーニングスター社会的責任投資株価指数」構成銘柄に選定

2018年1月4日付けでモーニングスター株式会社の算出する「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)」の構成銘柄が発表され、ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)は、2008年から10年連続で選ばれました。

社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)とは、従来の財務分析による投資基準に加え、社会への貢献度合いや倫理面、環境面から企業を評価する投資方法です。国内初のSRI株価指数である「MS-SRI」は、国内上場企業約4,000社の中から、社会性に優れた企業と評価できる150社を選定し、その株価を指数化したものです。

投資家の皆さまからのSRIへの関心が高まる昨今、10年連続で選定されていることは、ブラザーのコーポレートガバナンスやコンプライアンスの体制だけでなく、雇用、健康・安全、教育、地域社会、環境等さまざまな社会的課題への積極的な活動と情報公開が高く評価された結果と捉えています。

ブラザーグループは、これからも中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、すべてのステークホルダーからの信頼を積み重ねるとともに、さらなる事業の成長を目指します。

*：記載されている情報は、2018年1月4日時点のものであり、予告なしに変更される場合があります。



株主とともに 外部からの評価

SNAMサステナビリティ・インデックス

6年連続で「SNAM サステナビリティ・インデックス」構成銘柄に選定

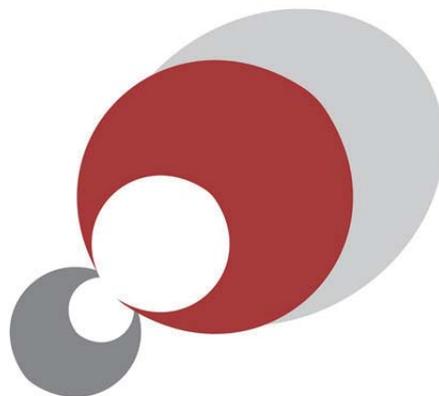
損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社が独自に設定している「SNAMサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に、ブラザー工業は、2012年から6年連続で選ばれました。

「SNAMサステナビリティ・インデックス」は、2012年8月から設定されており、SOMPOリスクアマネジメント社の環境調査とインテグレックス社の社会・ガバナンス調査から企業のESG(環境・社会・ガバナンス)を評価し、構成銘柄を選定しています。

年金基金や機関投資家向けなど、ESG評価の高い企業の株式に投資する社会的責任投資(SRI : Socially Responsible Investment)ファンドの運用に活用されています。

設定当初から6年連続での採用は、ブラザー工業のESGの取り組みが継続的に評価された結果と捉えています。

ブラザーグループは、これからも中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、すべてのステークホルダーからの信頼を積み重ねるとともに、さらなる事業の成長を目指します。



Member of SNAM
Sustainability Index
2018

株主とともに 外部からの評価

健康経営優良法人

ブラザー工業株式会社が2年連続で「健康経営優良法人」に認定

2018年2月、ブラザー工業は、経済産業省が設計し日本健康会議が運営する健康経営優良法人認定制度の「健康経営優良法人」に、昨年に続き認定されました。

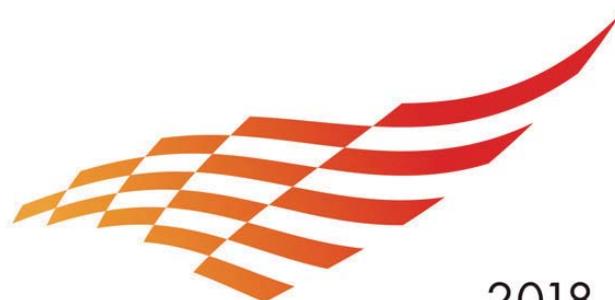
健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みに基づいて、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰するものです。健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目的としています。

ブラザー工業は、従業員が長期にわたり才能とスキルを発揮するために、一人ひとりの健康管理が重要であると考え、継続的なメンタルヘルス教育や禁煙サポート・受動喫煙防止の活動など、従業員の心身の健康維持・増進に取り組んでいます。2016年9月には、さらなる健康経営推進のため、ブラザーグループ健康経営理念を制定するとともに社長を最高健康責任者とし、より強固な健康経営推進体制を構築しました。

「健康経営優良法人」には、ブラザー工業のほかにグループ会社である、株式会社ニッセイ・ブラザーインターナショナル株式会社・ブラザー販売株式会社・株式会社エクシング・ブラザーロジテック株式会社・ブラザー不動産株式会社・株式会社ブラザーエンタープライズの7社が認定されています。

ブラザーグループは、これからも健康経営の実現に向け、従業員の健康の保持・増進に対する取り組みを戦略的に進めていきます。

*：「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



2018
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

地域社会とともに グローバルな社会貢献活動

ブラザーグループ全体で一体感を持った社会貢献活動を推進

ブラザーグループは、「ブラザーグループ グローバル憲章」に示されている「所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力する」という考え方にに基づき、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。またブラザーグループ全体で、よりグローバルに一体感を持った社会貢献活動を推進するため、下記の2つの活動を中心に、各国・地域の拠点と連携してグローバルに展開しています。

- (1) 地球環境への配慮に関連した活動
- (2) 「地域」「人づくり(従業員を含む)」を意識した活動

2017年度の取り組み

ブラザーグループは、環境活動を象徴するロゴとスローガンである「Brother Earth」に基づき、企業活動のあらゆる面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行っています。

2017年度もその一環として、製品における省エネルギーや工場の操業における省エネルギー、環境保護団体の支援や従業員参加の環境保全活動などをグローバルに展開しました。

「地域」「人づくり」を意識した活動としては、2008年から日本で、地域の課題解決に取り組む若手起業家を支援する「東海若手起業塾」に協賛しています。また、世界各地で開催されるがん患者を支援しがん征圧を目指すチャリティー活動に、日本・アメリカ・ニュージーランドなど世界22拠点の従業員がそれぞれ参加し、グローバルで一体感をもった活動の推進を図っています。

各国・地域の社会貢献活動事例(分野別)

活動分野	活動	活動拠点
地球環境への配慮に関連した活動	「Brother Earth」のスローガンに基づく、環境保護団体の支援や従業員参加の環境保全活動のグローバルでの実施	ブラザー工業株式会社 各国・地域の製造・販売拠点
「地域」「人づくり」を意識した活動	地域の課題解決に取り組む若手起業家を支援する「東海若手起業塾」	ブラザー工業株式会社
	がん患者を支援しがん征圧を目指すチャリティー活動への従業員参加	・ブラザー工業株式会社 ・ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.) ・ブラザーインターナショナル(ニュージーランド)Ltd. をはじめとした世界22拠点を

地域社会とともに グローバルな社会貢献活動

ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加

ブラザーグループではグローバルで一体感を持った従業員参加の社会貢献活動を目指し、がん患者を支援するチャリティーイベントへの参加を推進しています。支援活動を各拠点へとつなげ、世界地図に支援の輪を描いていくことから、2011年にこの活動を「ゴールデンリングプロジェクト」と命名し、2017年度は、世界22拠点で従業員とその家族がプロジェクトに参加しました。

「ゴールデンリングプロジェクト」に取り組む拠点のうち多くは、チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に参加しています。このイベントは、参加者が寄付を行うとともに、チームの仲間と24時間歩き続けることで、がん患者を励まし勇気づけ、がんへの意識や備えを学ぶイベントです。募った寄付金は、がんの新治療や新薬開発、若手医師の奨学金などの活動に活用されています。

欧州の生産拠点であるブラザーインダストリーズ(スロバキア)s.r.o.(以下、BISK)は2017年6月、「ゴールデンリングプロジェクト」の一環で、スロバキアの首都ブラチスラヴァで行われたチャリティーイベント「Run for Life」に参加しました。

このイベントは、乳がんの正しい知識を広め、乳がんと闘う資金を募ることを目的としています。およそ4,000名のイベント参加者は、乳がんとの闘いのシンボルであるピンク色のTシャツを入場証として購入し、全長4kmのコースを歩きました。Tシャツ代として集まった約24,000ユーロは、乳がん患者の支援団体に寄付されました。



ピンク色のTシャツを着て歩いた従業員

イベントに参加したBISKの従業員からは「若い娘を連れて歩きました。今後、科学研究が進むとともに治療技術が向上し、娘が大きくなった頃には誰も乳がんに苦しまないことを期待しています」とコメントがありました。

地域社会とともに グローバルな社会貢献活動

ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加

2017年度 ゴールデンリングプロジェクト参加の主な拠点



ニュージーランド



アメリカ



上海



台湾



ドイツ



イギリス



シンガポール



珠海



日本



スロバキア



インドネシア



フランス



韓国



オーストラリア



ベトナム



香港



タイ



南アフリカ



フィリピン

▶ ゴールデンリングプロジェクト紹介映像 (英語 約3分) <https://www.youtube.com/watch?v=ZgbGUXMdjll> * : 動画はYouTubeを利用しています。

地域社会とともに グローバルな社会貢献活動

大規模災害への対応

世界各地で発生する大規模災害に対して、ブラザーグループは発生地域や被害の状況に応じて、会社と従業員が一体となった支援に取り組んでいます。

主な支援は以下の2つです。

1. グループからの義援金による支援
2. 従業員からの寄付「絆ファンド」やボランティア活動による支援

会社からの義援金は、緊急支援として主に赤十字社やNPOなどに拠出され、従業員からの寄付やボランティア活動は、被災地のニーズに合わせて役立てられます。

2017年7月、震災直後から支援している宮城県七ヶ浜町に、ブラザーグループの従業員から集まった絆ファンドを寄付しました。寄付は、七ヶ浜町が現在取り組んでいる復興テーマ「グローバル人材育成プログラム」に活用されています。

七ヶ浜町で行われた贈呈式では、寺澤町長が「これまで、きずな公園やきずな図書室など、多くのご支援をいただき、ありがとうございます。今回は、子どもたちが英語に親しめるような絵本や図書、英語教材の購入に活用させていただきます。さらなる復興を進め、魅力ある町にしたいと思います」とコメントされました。

また、ブラザーは2013年から、被災地の物産を購入することで復興に貢献しようと、定期的に従業員向けのマルシェを実施しています。

2017年11月、グループ会社の株式会社ニッセイが開催した創立75周年記念行事で、ブラザーグループとして通算14回目となるマルシェを行いました。行事には、ブラザーグループの従業員に加えて、地域の皆さまの参加もあり、約200名が東北や熊本の物産を購入しました。

ブラザーグループは、震災を風化させないよう、これからも継続して震災復興支援を行っていきます。



左から、寺澤町長と社長(当時)



マルシェで物産を買い求める従業員

地域社会とともに 各地域での社会貢献活動

「東海若手起業塾」の協賛開始から10年

若手起業家を従業員が支援

ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)は、2008年、本社がある東海地方の若手起業家を支援するために「東海若手起業塾」(以下、起業塾)への協賛を開始しました。起業塾では、起業家の事業戦略の立案や、製品開発を後押しするなど事業を成長軌道に乗せるための取り組みをしており、10年間で合計41組の若手起業家を支援しました。2012年からは、ブラザー工業の従業員が、業務で培ったスキルや経験を生かした「プロボノ」として参画しています。

2017年は、10期生として3組の起業家が選考されました。そのうち静岡県でNPO法人を運営する天野さんは、地域と連携した研修プログラムを地元の企業に提供する事業に取り組みました。この事業は、地元の企業で働く人が研修の場で地域の課題に取り組むことで、働く人が成長すると同時に地域の活性化ができるということを目指しています。期間中、地元の企業の人材ニーズを把握するために経営者へのヒアリングを実施。また同時に、研修プログラムのトライアルが行われました。

研修プログラムはヒアリングやトライアルによってブラッシュアップされ、2018年3月時点で企業3社に採用されることとなりました。天野さんは起業塾での学びについて「目の前にある地域の課題を解決するだけでなく、静岡県が目指す未来を実現するために必要なもの(人・コト・仕組み)を考えることができました。また、事業を持続させるという視点を持つようになりました」とコメントしました。

プロボノとして参加したブラザー工業の従業員からは「モノ創りに携わる技術者として、また管理職としての視点を生かしたアドバイスを行い、起業家を支援しました。熱い思いを持って取り組む起業家と交流して共に活動できたことは刺激的で、活動のスケールの大きさと展開スピードの速さに驚きました。業務では得がたい経験ができました」という声がありました。



事業について検討する起業家の天野さん

10周年記念イベント「Tokai Innovators Ecosystem Summit for 2027」を開催

2018年3月には、10周年記念イベントとして「Tokai Innovators Ecosystem Summit for 2027」を名古屋大学物質科学国際研究センターで開催しました。起業塾関係者やブラザー工業の従業員、起業塾に関心を持つ学生や、社会人など計175名が参加しました。イベントでは、今期塾生の最終報告会のほか、基調講演と意見交換会が行われました。基調講演では、起業塾がこの10年間で地域を変えようと挑戦してきた活動の紹介などがありました。意見交換会では、CSRや若者の社会参画など8つのテーマについて議論されました。

ブラザー工業は、これからも社会的課題の解決や地域の活性化にビジネスとして取り組む若手起業家を起業塾への協賛を通じて支援していきます。



参加した塾生と東海若手起業塾関係者

地域社会とともに 各地域での社会貢献活動

10年の節目を迎えた「ブラザーの森 郡上」

これまでの活動で5,906本を植樹

ブラザー工業株式会社は2008年に岐阜県、岐阜県郡上市と、郡上市内のスキー場跡地をはじめとする計3カ所を「ブラザーの森 郡上」とする協定を締結し、森林の復元を目指して活動を行ってきました。

締結以降、毎年2回、春と秋に植樹を行っており、2008年6月の1回目から2017年10月の20回目までに5,906本を植樹しています。

2017年10月に行った植樹活動では、締結10年の節目として、岐阜県郡上市長から感謝状をいただいたほか、全20回すべての植樹に参加した従業員4名の記念植樹を行いました。その中の1名は、「参加当初は、木を植えるのが楽しくレクリエーションの感覚が大きかったのですが、現在はブラザーの森への愛着も大きくなり、育った森をこの目で見届けたいという気持ちで木を植えています。今後も植樹に関わる方々と一緒に、森を育てていきたいと思っております」とコメントしています。

ブラザーは、これからも地域の住民と協議しながら従業員とともに、「ブラザーの森 郡上」の活動を推進していきます。



岐阜県郡上市長からいただいた、木で作られた感謝状



すべての植樹活動に参加した従業員の記念植樹

アルゼンチンで、経済的に恵まれない学生たちに授業を実施

従業員が講師となり、さまざまなテーマに沿った授業を行う

ブラザーインターナショナルコーポレーション(アルゼンチン)S.R.L.(以下、BIC(アルゼンチン))は、非営利団体「Fundación Caminando Juntos」と協働で、2017年から経済的に恵まれない学生たちに授業を行う活動を始めました。

2017年は、BIC(アルゼンチン)の19名の従業員が講師となり、Esteban Echeverria Schoolの17歳から18歳の学生14名を対象に約2時間の授業を週に1回のペースで計12回行いました。授業は、近い将来社会人になる学生たちが必要な知識や能力を身につけることを目的に、財務計画や倫理、リーダーシップ、貯蓄、税金など学生たちが興味を持ちそうなテーマを中心に実施され、プレゼンテーションや動画を用いるなど理解しやすいような工夫を凝らしました。

参加した学生からは、「これから社会で働くにあたって役立つと感じました。また、ビジネス環境を知るのにも役立ちました」とコメントがありました。参加した従業員は、「この活動は、子どもたちと従業員双方にとって非常に有益な活動でした。努力をし、全力で取り組むならば目標が達成できること、そして、能力的にも人間的にも成長できるというメッセージを若者たちに伝えることができました」とコメントしています。

BIC(アルゼンチン)は、これからも地域社会をよりよくするための継続的な取り組みを、従業員一体となって進めていきます。



従業員による授業

地域社会とともに 各地域での社会貢献活動

地域のニーズに合わせた社会貢献活動を行うドイツの販売会社

地域の子どもたちの笑顔や医療体制の構築に貢献

ドイツ北西部のエメリッヒにある販売拠点、ブラザーインターナショナルレーンダストリマシーネン(ドイツ)GmbH(以下、BIMH)は、1年を通じてさまざまな地域貢献活動を行っています。

5月には、外出の機会が限られる、重い病気や障がいのある子どもたちにトラックでのドライブを楽しんでもらうイベント「トラックーズラン」に協賛しました。このイベントはトラックの助手席に子どもたちを乗せ、カルカーからエメリッヒを経由しス=ヘーレンベルグまでの往復およそ65kmを約4時間かけて走り、外に出ることの喜びを感じてもらうことを目的に実施しています。イベントの最後にはドライブで感じた楽しい気持ちをいつでも思い出してもらえるようにBIMHが提供したティディベアが子どもたち130人に贈られました。

10月には、地元エメリッヒの救急医療サービス機関から要望のあった、ティディベアの購入費の一部を寄付しました。ティディベアは、救急車で病院へ搬送される幼い子どもの不安を和らげるため、救急医療サービスの隊員から子どもたちに贈られます。他の地元企業から拠出された寄付も含め、約2,000個のティディベアが救急医療サービス機関に贈られました。

また、11月には、AED(自動体外式除細動器)を寄付しました。ドイツでは、緊急時に備え、劇場をはじめ公共施設でのAED設置が進められています。今回寄付したAEDは地域の住民に親しまれている市営劇場に11月上旬に設置され、緊急時の備えができました。

BIMHは、これからも地域に対する貢献を常に意識し、継続的な取り組みを行っていきます。



子どもたちを乗せ街中を連なって走るトラック



市営劇場に設置されたAED

担当者から

~地域のニーズに応じていきます~

ブラザーインターナショナルレーンダストリマシーネン(ドイツ)GmbH
Stachetzki, Folker

重い病気や障がいのある子どもたちの笑顔につながる活動や地域の医療体制への貢献を行うことができました。
今後も地域のニーズに応じていきます。

地域社会とともに 各地域での社会貢献活動

中国の研究開発拠点で、恵まれない人々の支援を行う

従業員から集めた書籍や衣類を寄贈

中国の研究開発拠点である濱江兄弟信息技术(杭州)有限公司(以下、BSH)は、2017年度、恵まれない人々へ書籍や衣類を寄贈しました。

9月、子どもたちに読書を通じて物語の楽しさや、知識を深めてもらいたいと教育資源の乏しい学校に書籍を寄付しました。従業員に提供を呼びかけて集まった95冊の絵本や小説などを貴州省六盤水市にある学校の子どもたちに届けました。

10月には、冬の厳しい寒さの中でも、暖かく過ごしてほしいという思いから恵まれない人々に衣類を届ける活動を行いました。従業員に衣類の提供を呼びかけたところ、コートやマフラー、手袋など45着が集まり、非営利団体を通じて、河北省保定市郊外の人々に届けました。

担当者は、「書籍や衣類を提供することで、少しでも人々の役に立つことができうれしい。来年度以降、より多くの本や衣類を届けられるよう、さらに従業員に呼びかけていきたい」と話していました。

BSHは、これからも地域に対する貢献を常に意識し、継続的な取り組みを行っていきます。



多くの本を寄贈した従業員